

御言葉に立つ教会

創立70周年記念誌



日本キリスト改革派
松山教会

松山教会設立70周年記念誌

1949・5～2019・5

日本キリスト改革派松山教会



教会設立70周年記念事業(2019年5月26日)

目 次

1.	巻頭言	久保浩文	1
2.	20年間の軌跡	入船 聰	2
3.	松山教会設立 70 周年に寄せて	久保浩文	5
4.	松山教会設立 70 周年記念礼拝次第		8
5.	記念礼拝説教「イエスが私を呼んで下さる」	小野静雄	9
6.	松山教会での思い出		17
	(1) 松山教会の年輪と共に頂いた恵み	入船和子	
	(2) 松山教会設立70年を迎えて	和田紀子	
	(3) 松山教会での信仰の思い出、証	柏原繁宜	
7.	寄稿		31
	創立70周年おめでとうございます	西田三郎	
	二つの感謝	藤方一彰	
	教会設立70周年のお祝い	川杉安美	
8.	祝電・はがき一言メッセージ		35
9.	70周年記念賛歌(五月の風)	入船 聰・和子	40
10.	70周年を迎えての信徒の所感		41
11.	伝道集会のあゆみ		55
12.	松山教会・新居浜伝道所合同修養会		58
13.	召天された兄姉		62
14.	教勢統計		63
15.	松山教会の沿革(略史)		66
16.	写真集		68
	(1)教会活動の記録		
	(2)設立70周年記念集会		
17.	編集後記		86

1. 巻頭言

久保浩文

松山教会は1949年5月29日に教会設立をして、2019年5月に満70周年を迎えました。2019年5月26日(日)は、主の祝福の下に松山教会設立70周年記念礼拝として捧げ、説教者として、かつて愛媛伝道所、新居浜伝道所にてご奉仕をされていた小野静雄引退教師をお招きしました。礼拝は、他教会からの出席者も含めて52名でした。午後からの感謝会は新居浜伝道所の西田三郎先生夫妻、会員の方もご参加下さいました。小野先生の説教は、今も生きて働かれる主の臨在と導きを覚える感動的な礼拝でした。感謝会は、愛餐会の後、松山教会のこれまでの歩みをビデオ上映で振り返りました。また、四国中会の多くの教会、伝道所からの祝電、祝文が披露されました。松山教会にゆかりのある三名の方達から、思い出とこれからの抱負を語って頂きました。

70周年の記念礼拝と感謝会を無事に守ることが許され、記念事業の一環としての記念誌の編纂と出版が残されていました。教会員をはじめ松山教会にゆかりのある方々からも貴重な原稿や祝文等をお寄せ頂いたにも拘らず、2020年の初めから世界的な規模で流行し、感染拡大した新型コロナウイルスによって、記念誌編集委員会も暫く開くことが出来ずに約2年の歳月が過ぎ去りました。記念誌の発行が大幅に遅れ、皆様に多大なご迷惑をおかけしました事を、誌面をお借りして衷心よりお詫びを申し上げます。

そして今、ようやく、皆さまのお手元にお届けできますことを心から主に感謝いたします。今後の松山教会の歩み、そして愛媛県伝道の上に主のお導きを切に祈ります。

2. 20年間の軌跡

入船 聴

1999年5月30日、松山教会は教会設立50周年を迎え、教会標語「心一つにして礼拝を守る」を掲げ、新会堂の下で新たな歴史の第一歩を踏み出した。

柏原牧師以下、会員一丸となって、一人一人が忍耐強く礼拝を守り続けて行けば、必ず教会は成長し、神様の祝福を頂ける、との確信に満ちた新たなスタートであった。

50年を節目に、次の節目に向かって、一同意欲に燃えていた。6月より柏原牧師は高知教会の代理牧師に就任。第3主日は長老が代わって奨励を担当して礼拝を守ることになり、以後長老は奨励の機会を通して自らの召命感、御言葉を語ることの難しさ、日頃からの準備の重要性を覚えながら修練を積んで行った。このことが2004年2月～9月、柏原牧師の入院、療養生活のとき、朝拝や夕拝を長老が交替で奨励を担当し、乗り切る原動力になったのである。

病を得るまでの柏原牧師は改革派教会の教会形成論「一つ信仰告白、一つ教会政治、一つ良き生活」に立ち、今再び創立の志に立ち返って教会発展を図ろうと、牧会、伝道に燃えておられた。

その時の教会標語「聖書によって改革され続ける教会」が象徴的である。

何をするにも、神の御前に生きているという深い自覚と畏れを持たねばならない。

神のことばを徹底して重んじる改革派信仰とは、神の御前に徹底して生きる信仰である、と。2001年の標語は「神の御前に生きる」を掲げ、教会員一同、心を新たに信仰生活に努めた。柏原牧師は2004年、病を得るまでは礼拝の充実、クリスマス賛美の夕べの創始等、意欲的だったが、その後は、病の影響で説教、牧会にも支障をきたすほどになっていき、2009年4月をもって牧師を辞任された。

2009年5月～11月の間、坂出飯山教会の吉田崇牧師を代理牧師として迎えた。

12月1日田中茂樹定住伝道者着任。翌2010年10月会堂外壁、屋根、壁面等の補修工事を行い、教会堂のメンテナンスに努めた。2011年4月12日～13日、当教会に於いて第61回四国中会定期会が開催された。同年4月29日、田中茂樹定住伝道者、松山教会4代目に就任される。

2012年11月30日、田中茂樹牧師、松山教会牧師を辞職され、12月1日より再び吉田崇牧師に代理牧師を務めていただくことになった。

2013年4月1日より1年間、高知教会久保浩文牧師に代理牧師を務めていただき、2014年4月1日、久保浩文牧師、松山教会5代目牧師就任という喜びの日を迎え、無牧の試練の後、教会員一同喜びと感謝の内に新たな一歩を踏み出したのである。

無牧の間、首藤正治先生と玉井宣行先生には松山教会の苦境を思い、尊いご奉仕をしていただき毎週の礼拝が守られ、御言葉による霊的養いを得、一人一人の信仰生活が支えられたことを改めて感謝せずにはいられない。

礼拝出席者はかつての50人程から、今や30人程に減少しており、そこで信仰生活の原点に立って、礼拝の重視と伝道に力を入れようとの思いから標語は「神を礼拝し、御言葉を宣べ、伝える」とした。

久保牧師は、「礼拝は神を礼拝し、御言葉に耳を傾け霊的な恵み、祝福を受けるための大切な時」と説かれ、まずは常時40人の礼拝出席を目標に励むことにした。

この年から、礼拝出席困難な方への送迎の配慮をしたり、毎月第4主日は施設入居会員の訪問日と定めたりして、その実施に努め、今日に至っている。

教会の頭であるキリストに連なる一つの枝としてお互いが不足と必要を補い合い、助け合い、支え合う教会こそが成長する、との思いを共有し、教会員相互の信頼と絆を強めるべく、信仰生活に励んできた。

春の特別伝道集会は、待望の清新な牧師を迎えたことから、久保牧師に説教奉仕をしてもらうこととした。ずっと成人受洗者ゼロが続いていることは教会にとって重大な課題であり、伝道について教会員一同真剣に考えなければならぬとの思いに至り、決意を新たにされた。

2015年標語「御言葉に聞き、霊に燃えて主に使える」を掲げて各自、礼拝をしっかりと守り、与えられたそれぞれのタラントを生かし、信仰生活に努めた。この年も新たな受洗者は与えられなかったが、契約の子が適齢期に信仰告白に至るよう信仰教育も疎かにしてはならないということを確認し合い、教会学校の教育強化も図っていった。

また、「伝道委員会」の組織も従来の小会、執事会の全員ではなく代表を選びそれに各会代表を加え、組織のスリム化を図った。そして求道者、新たな来会者が礼拝に続けて出席されるようにどう働きかけ、受け入れ態勢を整えるかを考えた。

2016年6月の特別伝道集会では、新しい試みとして土曜日は対象を初心者、求道者とし、日曜日は契約の子、小学校高学年から青年層そして契約の子の親を対象として絵本「大切なきみ」を題材とした工夫を凝らした説教がなされた。その結果、契約の子の出席が伸びた。クリスマス祝会でも教会学校の生徒の絵本題材での劇や主題聖句の暗唱がなされるなどして御言葉の種が着実に育ちつつあると感じさせられた。また、クリスマス賛美の夕べ、クリスマス記念礼拝共50名の出席を見、感謝であった。これを機に礼拝での常時40名出席は実現できるのではとの気運が盛り上がった。前年から献金奉仕者に新たに婦人、高校生も加えみんなで礼拝を捧げる献身の形が次第に定着していった。

2017年の礼拝出席者は6名増。クリスマス記念礼拝は48名の出席を見た。まだまだ教会全体、また各自の祈りと伝道の実践が不足しているとの思いを強くさせられた一年であった。

2018年は翌年の教会創立70周年を目前にして「いのちの水あふれる教会」の標語の下、信仰生活の原点であり、天国の雛形である毎週の礼拝を充実させていくことを決意した。また70周年記念礼拝、記念行事、記念誌編集委員会といった実行組織を立ち上げ、その準備を進めていった。

2019年は例年行っている春の特別伝道集会に変えて、5月26日に教会創立70周年記念礼拝を行い、それを大々的な伝道の機会とすることとした。講師には我が松山教会にも馴染みのある新居浜教会元牧師で前多治見教会牧師を務められた小野静雄先生をお招きし、優しい口調の中にも力強い説教をしていただき、一同期待と喜びと感謝の内に教会創立70周年記念礼拝を捧げた後、記念感謝会をもった。

3. 松山教会設立 70 周年に寄せて

久保浩文



一口に 70 年と言っても、その間に多くの兄弟姉妹方が、松山教会で礼拝を守り、様々な形で教会を支えて来られました。既に天上の教会に移された方も多くいます。70 年の歩みの中で、様々な試練や苦難をとおして教会員が、祈りをともにし、支え合って今日の松山教会が存在しています。

50 周年の時は、柏原繁宜牧師でした。柏原牧師の時代、1993 年 1 月 9 日に現教会堂の献堂式が執り行われました。当時の教会員は、新たな会堂の下で新たに伝道と教会形成に想いを馳せてきました。「松山教会創立 50 周年記念誌」を 1999 年 9 月に出版してから、早 23 年の歳月が経ちました。あれから 20 年が過ぎ、70 周年の記念すべき節目に松山教会牧師としてかかわることが出来たことに深い感謝を捧げます。さらに「50 周年記念誌」の祝辞に当時、教会設立を果して間もない新居浜教会牧師として一文を寄せることが出来たことも歴史を通して働かれる主の不思議な計画と導きを覚えます。

70 周年を迎えて、今後の松山教会の中心的な課題は、①礼拝を大切にすることと②契約の子の信仰継承です。

どの様な時代、不測の事態によっても、まず中心に考えなければならないのは、礼拝です。教会の生命は礼拝にあります。「神は、礼拝における御言葉の朗読と説教およびそれへの聴従において、靈的にその民のうちに臨在したもう」（日本基督改革派教会創立二十周年記念宣言）少子高齢化の影響は、キリスト教会にも反映しています。礼拝の恵みを、どのようにして高齢者や長期欠席者に届けることが出来るかが、大きな課題です。コロナ禍において、感染拡大が厳しい状況下にある時にも、私達は、主の臨在される礼拝を中心として健全な信仰生活を送ることが出来ます。他中会の教会・伝道所にあつては、早くから礼拝を、従来のような礼拝堂において体面式にて守る方式から、オンラインによって各家庭にあつて礼拝参加という方式に変えられました。松山教会は、全国的な緊急事態宣言下の時は、礼拝堂での礼拝出席者を、牧師と一部の教会役員に制限し、他の教会員は各家庭において礼拝時間を過

ごすという、かつてない経験をしました。会堂での礼拝を再開してから、他教会のようにオンラインによる礼拝参加の可能性も考えましたが、教会員の多くが、パソコンやスマートフォン操作に慣れておらず、高齢者のことも考慮に入れて、当面は、礼拝堂にての礼拝のみとし、プログラムも短縮、讃美歌の歌唱も1節のみという形式で守りました。しかし、コロナ禍以前と比べて、出席者が減少してきたことも事実です。礼拝前の手指消毒、マスク着用等の感染予防対策により、礼拝によるクラスターを出すことはなく、守られてきたことは、主の憐れみです。そして、コロナ禍の2年の間に新たな礼拝の守り方や活動の可能性が模索できたことは新たな恵みです。教会員達の信仰生活は、以前にもまして、お互いの安否を問い支え合うようになったと思います。また、松山教会と並んで愛媛県に二つしかない新居浜伝道所では、2014年から宣教教師として西田三郎教師が、70歳を過ぎても定年を更新して働きを継続してこられました。残念なことです。諸般の事情により西田三郎教師は、2022年2月末で新居浜伝道所を辞職、教師引退されました。これは新居浜伝道所だけでなく、松山教会にとっても、大きな出来事です。私が、愛媛県下の改革派教会の教師として、四国中会より新居浜伝道所代理宣教教師として指名され牧会の責任を担うことになりました。コロナ禍でもあり、移動が制限される中、かつてのように定期的に対面での説教奉仕、伝道所委員会開催が困難となりました。解決策としてオンラインによる松山教会と新居浜伝道所との合同礼拝を始めました。最初は、双方が、パソコン操作に不慣れなために接続や音声の不具合などが生じましたが、今は、大きな問題もなく、映像を通してではありますが、新居浜伝道所の礼拝を欠かすことなく、同じ御言葉の糧を頂く事が出来るようになりました。それに加えて、松山教会の他住会員や欠席者も礼拝に参加することが可能になりました。

二つ目の契約の子の信仰継承も、大切な課題です。小学校高学年から様々な部活動に参加する子供も増え、教会学校も休会にすることが多くなりました。信仰告白の適齢期の子供に個別に準備会を持ち、自覚的に信仰告白することが出来るように教会全体で配慮し、祈りに覚えることが大切です。契約の子が、中会や大会のキャンプや集会に積極的に参加するように勧め、同年代の他教会の子供との交わりも信仰を芽生えさせる上で有益です。

愛媛県伝道を考える上で、松山教会にとって、これまで以上に新居浜伝道所との関わりが大きくなることでしょう。これまで毎年9月に合同信徒修養

会を、会場も交互にしながら信仰生活の具体的な問題を主題に挙げて継続してきました。また、講壇交換も実施してお互いの交わりを深めてきました。しかし、コロナ禍により、2020年からは合同信徒修養会は、中止しています。現在の新居浜伝道所の会員の高齢化と会員数の減少、経済力を鑑みて、単独で宣教教師の招聘は、困難と思われます。今後も、松山教会牧師が新居浜伝道所代理宣教教師の責任を担うことになるでしょう。将来的には、四国中会の他の伝道所と同様に松山教会所属新居浜集会所となることも視野に入れて教会形成と伝道を考えなければならない時期に来ていると思います。しかし、教会の頭である主イエス・キリストが、最善の道を示して下さいを願い、信じています（2022年7月）。

4. 松山教会設立 70 周年記念礼拝次第

<p>日本キリスト改革派 松山教会</p> <p>創立70周年 記念礼拝</p> <p>2019年5月26日(日)</p> 	<p>日本キリスト改革派松山教会設立 70周年記念礼拝順序</p> <p>司式 久保 浩文牧師</p> <p>奏楽 入船 加恵姉</p> <p>前 奏</p> <p>招 詞 マタイによる福音書第 11 章 28～30 節</p> <p>讃 詠 5 4 6</p> <p>罪の告白の勧告と祈禱</p> <p>罪の赦しの宣言</p> <p>詩編歌 1 3 0 (ふかきふちより)</p> <p>開会祈禱 主の祈り</p> <p>牧会祈禱</p> <p>讃美歌 3 1 2 (いつくしみふかき)</p> <p>聖書朗読 マタイによる福音書第 13 章 53～58 節 (新 p.27)</p> <p>説 教 「イエスが私を呼んで下さる」 小野静雄先生</p> <p>祈 禱</p> <p>讃美歌Ⅱ 1 9 5 (キリストにはかえられません)</p> <p>献 金 高井洋子執事/久保誠子姉</p> <p>頌 栄</p> <p>祝 禱 小野静雄先生</p>
<p>感謝会 (午後 1 時～ 3 時)</p> <p>司会 入船 聰長老</p> <p>開会の祈り</p> <p>愛餐</p> <p>ビデオ上映 (語り: 和田紀子執事)</p> <p>水谷房雄長老</p> <p>祝電・祝文披露</p> <p>入船 聰長老</p> <p>松山教会での思い出</p> <p>入船和子姉 和田紀子執事 柏原繁宜元牧師</p> <p>閉会の祈り</p> <p>小野静雄先生 略歴</p> <p>1947年 愛媛県新居浜市に生まれる</p> <p>1972年 神戸改革派神学校卒業</p> <p>1972年～1974年 愛媛伝道所宣教師</p> <p>1974年～1987年 新居浜伝道所宣教師</p> <p>1987年～1997年 名古屋教会牧師</p> <p>1997年～2017年 多治見教会牧師</p>	 <p>〒790-0804 松山市中一万町6-4 TEL/FAX 089-943-1852 ホームページ www.asahi-net.or.jp/~yh6f-mztn 電子メール matsuyama@rcj-net.org 牧師 久保 浩文</p>

5. 記念礼拝説教 「イエスが私を呼んで下さる」

小野静雄（前多治見教会牧師）

マタイ福音書 13 章 53～58 節

松山教会の大切な礼拝に、このようにお招きいただき心から感謝申し上げます。さて今朝の聖書には、主イエスの郷里であるナザレの人々が、イエスについてどのような理解と共感を抱いているかが記されております。もちろん、理解というよりはひどい無理解です。共感というよりは不快感と軽蔑を抱いてイエスを見ているのです。そして 57 節では、人々はイエスに「躓いた」とあります。躓くとは、受け入れないこと、尊敬を失うことですね。主イエスの中に、何ら良いものを見出さないことであります。私たちは主の日、日曜日に、こうして礼拝に集まり、その日のために選ばれた聖書の言葉を開いて、共にそれを読み学んでおります。それは勿論、イエスに躓くためではありません。躓いて主を捨てるために、わざわざ日曜日の朝、教会に集まる者はだれもおりません。言うまでもなく、イエスに対する尊敬、イエスに対する感謝を学びたいのです。そして、神に信頼して生きる人生を、幾らかでも真剣に身につけたい。そういう願いと祈りをもって、礼拝に集っております。

今朝の聖書では、主イエスの故郷であるナザレで、人々が躓いております。イエスに対する無理解を経験しております。神の恵みに対する信頼が失われているのです。非常に残念なことです。故郷のナザレであれば、そこにイエスの家族がおります。ナザレの人々が躓いたとき、イエスの家族も同じように躓いたのではないのでしょうか。12 章の終わりの所で、主イエスが人々を教えておられる情景が描かれております。そこへイエスの家族、母マリアや兄弟たちが来て、イエスを外へ呼び出そうといたします。イエスの言葉を聞いて、ともに学ぼうというわけではありません。イエスを取り囲んでいる人々の、輪の中から、イエスを呼び出したいのです。つまり、家族の人々は、主イエスを囲んで学ぶ人々の仲間にはなりたくない。自分たちは外にいるままで、イエスを家の外へ呼び出そうとしているのであります。

人が聖書の教えに躓くということは、たいへん残念なことであり、痛ま

しいことでもあります。聖書の神さまに躓くことは、何よりもイエス・キリストに躓くことにほかなりません。それでは躓きはなぜ起きるのでしょうか。なぜ私たちは躓いてしまうのでしょうか。故郷の人々は申します。「この人は大工の息子ではないか。母親はマリアといい、兄弟はヤコブ、ヨセフ、シモン、ユダではないか。姉妹たちは皆、我々と一緒に住んでいるではないか」。つまり、主イエスの言葉や教えの前で素直になれないのです。謙遜になることができません。なぜなら、あれは大工の息子である、あれの母親も知っているし、兄弟や姉妹たちも、我々と一緒に住んでいるではないか。つまり自分たちと一緒にいる人間、親父さんやお袋さんについて、よく知っている人間にすぎません。イエスはそういう意味で、故郷の人々から言えば「身内」の人間です。恰好をつけてみても、お里は知れているというわけです。

松山教会が、こうして 70 年の歴史を重ねて、喜びの今日を迎えています。この歴史の中心にあるのも、今朝の御言葉と同じような悩みと課題、同じような躓きと希望に生きることではなかったでしょうか。つまり自分の故郷で主イエスを証した 70 年です。お里は知れているぞ、どうそぶく人々に、聞きなれたことば、地方のことばで福音を語りつづける 70 年でした。

故郷の人々が、繰り返し語るのは「どこから」という言葉です。「このような知恵と奇跡を行う力をどこから得たのだろうか」(54)。「この人はこんなことをすべて、いったいどこから得たのだろうか」(56)。イエスについて、自分たちはよく知っている。この人は大工の息子である。母親はマリアという。恰好をつけてみてもお里は知れているではないか？ そういう侮りがあります。主イエスに対するなれなれしい身内意識があります。イエスは自分たちの身内である、イエスは我々に属している。この考えが、イエスに対する高慢を生むのです。時には主イエスへの侮りを生む温床です。しかし事実はその反対です。本当はイエスが私に属しているわけではありません。そうではなく私がイエスに属しているのです。それが本当の事です。しかし、私たちはしばしば、その本来の関係を逆転いたします。

イエスは自分たちの身内だ、と考えている故郷の人々は、イエスの知恵や力を素直に喜ばません。「どこから」知恵を学んだのか？ どこで力をつけたのか？ こうして「どこから」「どこから」と、周りを見回しております。しかし、「どこから」「どこから」と尋ねながら、決してこの人々は上を見上げようとしません。周りを見回すことに一所懸命で、上を見上げて「ど

こから」と尋ねようとはしないのです。

こうして人々はイエスに躓きました。イエスの郷里の人々が躓きました。母であるマリアなども同じように躓いているのです。このように家族が躓き、母親が躓く。ここに早くも、主イエスの十字架への道が始まっている、と言わなければなりません。

故郷の人々は、イエスが余りにも自分たちに近い人であることで、躓きを味わっております。家族が躓き兄弟が躓くのです。そういうことは、皆さんがすでに十分に経験しておられることです。私たちはみな、神の恵みを家族に伝えたいと願っています。けれどもそれほどに困難なことはありません。家族の中では、お互い、表も裏も知っている、知られているわけです。そういう間柄の中で、神の恵みを伝えきることが、どれほど困難なことでしょう。偉そうなことを言っても、あなたの言葉をあなた自身が裏切っているでしょう、という侮り、なれなれしさが、福音のさまたげになるのです。

今朝の聖書が語っている一つのこと。それは、神の恵み、福音の言葉、というものは低いものだということです。福音を福音として聞く。神の言葉を神の言葉として聞く。そのためには、私たち自身が、よほど低くされることが必要です。福音は低いものです。教会に来て、なにか偉い言葉、見栄えのする言葉を聞こうとすると、必ず躓くでしょう。牧師が語る言葉は、低い言葉であります。取り立てて学問などない人間、特別な宗教体験など何も持たない人間が、低い言葉として神さまの恵み、イエスの愛を語っている。それが日曜日の礼拝説教であると私は思います。

いわば太郎さん、花子さんが語っているのです。太郎さん、花子さんの口を通して、主イエスがお語りになります。ですから躓きは決して避けられません。イエスご自身が、故郷の人々からは相手にされないで、捨てられるのです。太郎さん花子さんの言葉が、まず尋常に相手にされないことは、決して不思議ではありません。礼拝の中で、聖餐の恵みにあずかることがあるでしょう。小さなパンのカケラに、イエスの十字架を仰ぐ、それが聖餐です。この小さな杯の中に神の愛を喜ぶ、それが聖餐の喜びです。主イエスは、小さなパンのかけら、小さな杯に身をやつして、私たちに近づいて下さいます。それが聖餐の恵みです。ですから、神の霊によって低い心を与えられる人々にとって、聖餐は感謝の食事となり、命の食卓となります。

けれども聖餐の食卓、その恵みは、いつでも同じように、機械的に私たちの魂に響くわけではない、それも私たちが例外なく味わう経験です。聖餐の恵みは自動的ではありません。機械的ではありません。毎回、同じ慰めを味わうのでもありません。礼拝に向かう私たちそれぞれの信仰と信頼、感謝と服従、そして祈りと謙遜。そうした私たち自身の信仰の姿が、聖餐にもはっきり現れてまいります。いわば聖餐は私たちの信仰の鏡です。ときには私自身の不信仰を映し出す鏡にもなる、と言わねばなりません。小さなパンのカケラ、これはどこから来ましたか？ わずかなブドウ液は、どこから来ましたか？ スーパーマーケットの食品売場かも知れないのです。しかし、このパンの本当の出どころは、天にいますイエス・キリストの体である。わずかのブドウ液の本当の出どころは、イエスの十字架の苦しみと、そこで流された主イエスの血潮にほかなりません。

今朝の聖書は、イエスがどこから来たか、という問いを繰り返しております。どこから来たか。言い換えれば、イエスとは誰であるか。イエスは、聖書によれば、神から出て神に帰るお方であります。神の独り子であるイエス。そのお方が、神さまからの使命を受けて、世に来られました。神は、その独り子をお与えになるほどに世を愛されました。独り子を信じる者が、一人も滅びないで永遠の命を得るためです。

「イエスはどこから来たのか」。そして「どこへ行くのか」。これが聖書全体を貫く一筋の問いかけです。イエスの故郷の人々、イエスの家族は、この問いに正しく答えることができないで、躓いてしまいました。イエスは、神と共にある栄光から降りて来られ、人間の貧しさの中へ来られました。イエスは、クリスマスの恵みから出て、十字架の苦しみへと来られました。イエスは、天の父の懐という故郷を出て、この世の混乱と悲惨の中へ入ってこられたのです。

ある西欧の聖書の学者が、イエスがこの世で働かれた日々を「イエス運動」と表現したことがあります。『イエス運動の社会学』という書物が日本でも翻訳されて出版されました。主イエスが世におられるということが、あの時代の人々に実に大きな衝撃を与えました。その衝撃を「驚き」と呼んでもよいでしょう。今朝の聖書にも「人々は驚いた」とあります。衝撃を受けたのです。イエスの言葉が、その時代の人々を驚かせました。その時代の中

で、富や名声や知恵をもつ人々は、イエスのことを軽んじました。しかし、地位もなく名声もなく、自分の中に嘆きと痛みと怖れをもつ人々は、イエスの中に、まったく新しい神の声を聞いたのです。つまり上にあるものを下にし、下になっているものを上に置き換える。そういう本当の意味で革命的なことが、ここから始まりました。それが、クリスマスに始まり、ヨルダン川で主イエスがお受けになった洗礼への歩みです。さらには洗礼からゴルゴタの十字架への道であります。十字架は、いわば神による革命である。上のものを下にし、下のものを上に挙げ、右のものを左に、左のものを右に置き換える神の革命です。そして、もちろん全ての仕上げは、復活して天に挙げられた栄光の主イエス・キリストです。主はやがて来られ、生けるものと死ねるものを審判されます。

主イエスは言われました。「心の貧しい人々は幸いである。天の国はその人たちのものである」。いわばこれが、イエス運動のモットーです。「柔和な人々は幸いである。その人たちは地を受け継ぐ」。これがイエス運動の運動方針であります。「あなたがたは地の塩である」「あなたがたは世の光である」。これがイエス運動の力の源であります。貧しく、柔和で、この世の知恵や権力には縁のない人々の中で、イエス運動が喜ばれ、歓迎されたのです。

松山教会の伝道は、平岡伝四郎という一人の信徒の祈りと献身と奉仕から始まりました。伝四郎長老は、南長老教会の宣教師、マイアース（ヘンリー・ホワイト・マイアース）の伝道助手として、神戸地区の伝道に奔走されました。伝四郎長老は「マヤス先生、マヤス先生」と最後までこの宣教師を慕っておられました。マイアース宣教師は、神戸の中央神学校（今の神戸改革派神学校の前身）の教授・校長をされた霊的指導者です。賀川豊彦という名高い伝道者を導いて洗礼を授けたことでも有名です。まさに賀川豊彦は「神の国運動」という、大きな伝道のうねりを作った人でありました。伝四郎長老は、郷里の松山に戻ってなお伝道を続け、この地に「イエス運動」の種を蒔いたのです。蒔かれた種は、芽生え、成長して実を結びました。それが松山教会 70 年の歩みです。

イエス運動は、神の前で低い心をもつ人々を、その中に巻き込んでまいりました。イエス運動は、重荷を負って苦勞する人々を、イエスの愛の中に引き込み、巻き込んで、成長してきました。イエス運動は、太郎さん花子さんを巻き込んで、天の国へと向かわせてゆく恵みです。イエス運動は、教会

を巻き込んで神の国へと引き込んでまいります。イエス運動に巻き込まれてゆく印。それが洗礼であり聖餐にはかかりません。

主イエス・キリストが世に来られたとき、主は御自分が出会う人々を、それぞれの名で呼ばれました。名指して私たちを呼んで下さいます。たとえばエリコの町で、主イエスは徴税人のかしらを招かれました。ザアカイ、木から下りて来なさい。今日はあなたの家に泊まることにしてある。つまり「あなたに用がある」という言葉を、主イエスは何度も繰り返されました。神さまが、私たちに向けて「あなたに用がある」とお語りくださいます。それに気づいて、自分を捧げることが信仰に生きることであります。創世記 12 章で、アブラハムが聞いた声。それこそ「あなたに用がある」という神の選びであります。アブラハムは、いわばイエス運動に巻き込まれた最初の人です。「故郷を離れよ」「父の家を出よ」。そのように神はアブラハムを名指して呼ばれました。「ああ、呼ばれているな」。そう信じて、立ちどまり、目を上げ、感謝と喜びにみちて、教会と共に神の国を目指すのです。

このようなイエス運動に、巻き込まれて真剣に生きた。その一つの例を、最後に紹介しておきたいと思います。第二次大戦中のフランスで起きた、素晴らしく不思議な出来事であります。書物としては『罪なき者の血を流すなかれ』という本に、詳しく記されております。舞台は、フランス南部の小さな村、ル・シャンボン。フランスは、カトリック国です。改革派教会は少数派であります。ル・シャンボンは例外的で、人口のほとんどが改革派の教会員だったと言われます。

フランスでも、ユダヤ人はナチスの迫害を受けて、おびたしいユダヤ人が、いわゆる強制収容所、絶滅収容所に送られて犠牲になりました。そのおぞましい暗黒の時代、ル・シャンボンでは、教会を中心に、町をあげてユダヤ人を匿い、保護する運動が実を結んだのです。この村の牧師であった、アンドレ・トロクメという牧師は、パリ大学やアメリカの神学校で学んで、小さな村の教会に赴任しました。33歳のことです。

ちょうどその時期に、ドイツではヒトラーの率いるナチスが政権を握り、一方、ナチに抵抗する、告白教会が誕生します。トロクメ牧師は、そうした時代の激しいうねりの中で、ナチの暴力に対してどのように抵抗するべきかを、真剣に誠実に準備したと言われます。聖書を学ぶために、村の地域を

13 に分けてグループを作りました。このグループが、ナチへの抵抗の大きな役割を担うことになりました。つまり、聖書を読み学ぶこと。そのキリスト者として最も基本的な準備が、ナチへの抵抗の準備と実践に繋がったわけです。

やがて大きな町から逃れて、ユダヤ人がル・シャンボンに避難してくるようになります。そのような避難民を、村の人々は家に迎え入れて匿いました。やがて、「ル・シャンボン村では、ユダヤ人の逃げ場がある」という噂が密かに広がって、ユダヤ人の子供たちを集団で受け入れてほしい、という要請も届くようになります。もはや一軒の家の好意だけでは対応できない。そこでトロクメ牧師は、小会・役員会を開いて、村での受け入れができるか協議しました。協議は 10 分も掛らなかったようです。「いいですよ、やりましょう」。そういう結論を小会が出した。およそ 5000 人のユダヤ人が、この村で匿われて命を救われましたが、その中に 3000 人の子供が含まれていたということです。

ル・シャンボンの出来事は、苦しみと嘆き、夜と霧の渦巻く激流のような時代の中で、取り立てて大きな出来事ではないかも知れません。しかし、何よりもそこでは、神の言葉に対する特別な尊敬と従順が生きていました。人々は、牧師をはじめ長老たちの決断に、信仰をもって応えていきました。人々の苦難に、信仰と愛をもって寄り添うことを目指し、犠牲を恐れなかったのです。つまり、キリストにおける神の愛のゆえに、村全体が結集して、ユダヤ人の苦難と恐怖に寄り添ったのです。「いいですよ、やりましょう」と心を決めて立ち上がったのです。

そこに教会の生きる道があります。つまり、教会がいつの時代にも引き受けるべき責任があると思われまます。私たち自身が呼ばれています。「あなたに用がある」という神さまの召命を、教会全体が受け止めて、神の言葉に従ってゆかねばなりません。イエスとは誰か？ このイエスは、私たちが侮ろうと思えば、いくらでも侮ることができるでしょう。「あなたに用がある」というイエスの招きを、撥ね付けようと思えばいくらでも撥ね付けることができるかも知れません。

しかし、イエス・キリストが、天から来て私たちのために貧しくなられたことを信じる人々は、イエスの招きを決して見逃すことはありません。イ

イエスの運動の中へと、色々な姿で巻き込まれることを恐れませんが、イエスの運動、つまり天から地に伸びる神の愛に、自分自身の身を投じるのです。イエスの愛、神の痛みに、巻き込まれることを感謝するのです。小さな自分を神への献げものとして、用いていただくことを喜ぶのであります。そして主イエスは、そのように、御自身と共に、犠牲を払い、自分と共に歩んだ人々を、決して忘れることなく、私たちを天の御国へと導いて下さいます。

「小さな群れよ、恐れるな。あなたがたの天の父は喜んで神の国をくださる」(ルカ福音書 12 章 32 節)。これが約束です。これが私たちに与えられる誉れです。私たちは、それぞれが小さな群れです。世間が侮ろうとすれば、いくらでも侮り、軽んじることができる。しかし、私たちは主イエスと共にいる、という素晴らしい栄誉を戴いております。松山教会が、70 年の歩みを超えて、さらに 100 年の歴史を刻んでいかれる。主イエスはその歩みを手引きして下さいます。イエスと共に地上を歩み、イエスと共に天国への旅を楽しむことが許されております。なんという恵み、なんという喜びでしょうか！

祈り

天の父である神さま。松山教会が、あなたの愛と選びに支えられて 70 年の歴史を重ねたことをこころより感謝いたします。すべてはただ神の憐み、主イエスとその御霊による歩みであったことを振り返り、御名を崇めます。同時に、主イエスの憐みと選びが、この 70 年の歴史を通して、多くの人々に届き、幾多の人々の信仰と献身を呼び覚ましたことも、私たちは決して忘れません。人々を、それぞれの名で呼び出し、主イエスの戦いの戦列に加えて下さった恵みを忘れません。どうか主よ、さらに松山教会の歩みを導き、やがて完成される神の国にあつて、生き生きと命の枝を伸ばす群れとして守り養って下さい。主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。

6. 松山教会での思い出

(1) 松山教会の年輪と共に頂いた恵み

入船和子

今日は、松山教会創立 70 周年感謝会の時を迎える事ができまして、主の御計画の恵みと導きを感謝いたします。

祖父、平岡伝四郎長老が神戸で宣教師マヤス先生に導かれまして、戦時中に特高警察等の迫害の嵐の中、聖書をポケットの中に忍ばせて信仰を貫いたと聞いています。そして松山に帰って来てから、主が祖父を用いて家庭集会から伝道を始め、1949年5月29日、その日付は父の誕生日なのでしっかりと覚えているわけですが、改革派松山教会が設立され、その年の9月に、私は生まれましたので、教会と同じ70歳と言うことです。

私は、この松山から外に出ていませんので、生まれてからずっとこの教会に出席して、礼拝を守り、交わりを通して今日に至りました。

70年を振り返ってみますと、いろいろな方々のお顔が浮かんで参ります。もうすでに、天に召された信仰の先輩方のお顔も、大変懐かしく思い出されます。

1951年からの、初代牧師宮先生の時代は、わたしの幼稚園から小学校時代で、当時教会学校は子供が多く賑やかで、テレビのない時代、聖書のお話の紙芝居が大変楽しみでした。

以前は木造の教会で、入り口に桜の木があって、その周りに花壇を作って楽しんだり、この近くの公園に行って遊んだり、教会学校の先生のお家にお邪魔したりして、思い出してもほのぼのとした暖かい雰囲気でした。宮先生には、英語を教えて頂き、LW モーア先生に色々とお話して頂きまして、アメリカ文化にあこがれを持ったものでした。

そして、その頃、見上げると背の高いとても素敵なお兄さん達がいて、当時愛媛大学の学生さんで、好青年達でした。愛大工学部専門課程は新居浜にあったので、松山教会の会員が移られ新居浜伝道所を開設されました。父平岡靖久に連れられて汽車に乗って新居浜に行ったのを懐かしく思い出されます。

その中の一人の青年は、後に初代新居浜伝道所の宣教教師になられた、今は亡き入船尊先生でした。松山教会出身の初めての牧師で、牧師夫人はここにおられる佐奈江姉妹です。その後、先程お説教をして頂いた小野先生、現在の西田先生、そして私達の久保先生も、以前新居浜伝道所、宣教教師をされました。今も、ぶどうの樹からぶどうの枝が育つように深い交わりができていますことを感謝いたします。

1965年から二代目牧師上河原先生の時代は、中学生から高校生、短大生で、広島カンファレンスキャンプに、多くの青年会員と出席して、広々とした緑の中で新たな交わりと学びをしまして、アメリカ宣教教師や先生方のご指導を得たことが思い出されます。

高校生時代は青年会も人数が多く、礼拝が終わっても教会で卓球をしたりして、なかなか帰らず楽しみました。また、当時は泊りがけで修養会を行い、1日修養会などもありまして、交わりと学びを深めていました。

礼拝後、運動会をして、小さな子供達もお年寄りも必死で走って、こけそうになって皆で応援したのが目に浮かびます。

短大生頃は「ぶどうの樹」も青年会が担当していてガリ版で印刷をし、四国連合青年会を松山教会が担当して城南高校を借りて行って、私も役員で発題をしたのを思い出します。

御殿場で行われた全国修養会に参加して全国の改革派信仰を同じくする方々と交わり少し視野が広がった気がしたものでした。その時リーダーだったのは、後の神学校校長牧田先生で、その時参加されていた小野先生始め、多くの方々が牧師になられたのでした。

また、クリスマスイヴはキャロリングを私の音楽科のお友達も参加して、夜空に美しい賛美を響かせたことも夢のように思い出されます。

結婚後、若いお母さんが多かったので若婦人会という会をつくり昼食を作ったり、手芸品で聖恵授産所のバザーに協力したり、機関紙「子ひつじ」を発刊しまして、若い層の意見や作品を載せたりもしました。

その頃、私は自分の子供と共に教会学校に通い、教師をして共に成長してきました。

共に学び、夏は、中島、興居島など教会学校でキャンプに行き、楽しい思い出を作りました。あの頃の生徒さんは今中堅で、次の教会を担ってくれると信じています。

1990年から三代目牧師、今日来て下っている元牧師柏原先生が着任され、1992年、今の素晴らしい会堂が建てられました。会衆の賛美とオルガン奏樂が天に高く響くように設計をされ、ドイツのパイプオルガンがデジタル録音された、四国で初めてのアーレンオルガンを設置して頂きました。バッハの好きな先生の意向を反映して、前奏曲は、その日の説教の聖書をよく読んでその箇所に合わせて、曲名を週報に入れ、コラール前奏曲を一生懸命練習したものでした。松山の超教派のオルガン講習会を行い、ドイツから帰国された方にもオルガン演奏もして頂いたものです。

当時は百人礼拝を目標に建てられた新会堂で、外の方々にも来て頂こうと、イヴ賛美礼拝も始められ、外からも演奏者を招き、私達も聖歌隊を充実させまして、今西真愛姉妹の歌姫も、長年共に賛美することができた事は、私にとっても忘れ得ない宝物です。

こうして70周年を振り返ってみますと、私の人生は松山教会と共にあり、本当に一杯の愛と恵みを頂いた幸せを深く感じる事ができまして、感謝です。

多くの牧師先生、信仰の先輩方が、今日まで築いて下さった代々の歴史、そして信仰が、次の世代に受け継がれるように、これからも信仰を一番大切にして、久保先生と松山教会の皆さまと共に歩んで行きたいと思うものです。

(2) 松山教会設立70年を迎えて

和田紀子

私たち一家が松山教会の礼拝に出席するようになったのは、1980年でして、夫一麦の転勤により九州から松山に戻り、以来39年あまり経ちました。

振り返ると、私は香川県の高松教会で幼児洗礼を経て告白、青年会時代を過ごし、その後、大阪での会社勤めの関係で神戸の板宿教会での教会生活、

結婚して夫の所属する福岡の春日原バプテスト教会で客員として信仰生活を送りました。随分と教会を転々としたものだと思います。

母教会の高松教会以外は、どちらの教会も短い期間ではありましたが、学びと交わりそれぞれに懐かしく思い出されます。バプテスト教会では、説教は改革派教会とは少し違いを感じましたが、交わりに於いては学ぶところがありました。

教会それぞれ、時、人、みんな違いますので、とても微妙なことであり、一概にこうだとは言えないし、ケースバイケースだと思いますが、バプテスト教会ではごく自然に会員の交わりの中に加えられたように思います。

改革派教会で育ち、ずっと改革派教会員として、改革派教会以外は考えられないし、教理と学び、交わりなどなど他教派と比べて最も優れていると自負して（他教派のことは殆ど知らないにも関わらず）いましたが、バプテスト教会での経験は、今までの自分を振り返る機会ともなりました。今、その経験が生かされているかどうか、反省しています。

ところで、一家で松山に戻り松山教会に出席するようになったのですが、しばらく客員として過ごしていました。

毎週の礼拝出席、そして、婦人会での学びや交わりなど、いろいろな行事を通して皆様によくして頂きましたが、私自身の欠点や至らなさも原因だったかもしれませんが、馴染めないことも多々ありました。住まいも松山の城北地方になる地域は何代も続いた農家の方たちが殆どで、人の出入り少ないせいでしょうか、いわゆるよそ者として子供たちも、そして、私もなかなか受け入れて貰えないようで、寂しい思いをしました。

お姑さんは60年近くこの地で住んでいるのに、「よそ者だから、目立たないように静かにしていなさい」と言うのが口癖でした。

私は新しい地でのそういった遠慮とか控えめとかという感覚は全くなく、分かりませんでした。例えば、道で会って挨拶をすると戸惑った顔をされて返事が返ってこないのです。えっ！！何！！とびっくりもし、情けなく、今までに経験のないカルチャーショックでした。町内の運動会でも子供たちはポツンと皆から離れていたり、娘の方はすぐ慣れたようですが、本当に可哀想でした。そのような松山での生活が40歳近くになって独善的で自分の言

動を振り返ることの少ない私の、遅まきながら大人として一人前の社会人となる訓練の時期だったのでしょう。忍耐という経験も少しだけ覚えて、神様が私に与えて下さった必要な時であったと感謝しています。

ところで、教会では客員としてしばらく経って転入し、松山教会陪餐会員となり、その後、教会学校の奉仕をさせていただきました。幼稚科をはじめ小学校低学年を担当しましたが、その頃の子供さんたちは、今、結婚して立派にお父さんやお母さんになって、育児と仕事に一生懸命でほほえましく頼もしくなりました。見上げるようにスラッと伸びた素敵な青年会の方たちを眺めて、ああ、抱っこして泣いていたのをあやしたこともあったなあと、時の経ったのがウソみたいで、私も年を取ったんだと自覚させられます。

また、上河原達雄先生の時代に執事に任職され、その後、今日いらして下さっている柏原繁宜先生時代に執事として会計の奉仕に携わり、その後、田中茂樹先生、久保浩文先生を通して26年間奉仕し、昨年5月に田村実執事と交代いたしました。会計執事として長い期間厳しい会計状況も経験しましたが、柏原先生からは、一生懸命伝道していたらちゃんと支えられ、恵みがあるとされたことで、赤字の時も担当者として心配しつつもいたずらに悩むことなく務めることができました。会計の奉仕を通して、自分のことだけでなく教会全体を、運営の在り方などを見渡せ、恵みと併せて課題にも気づくことができ、教会員としての自覚をより強く覚えることができ感謝しています。

いろいろ話しましたが、これまでのことで何と言っても大きな出来事は会堂建築です。

長い間の願いとして、長老や先輩執事たちと共に、新米会堂建築委員の一人として関わることができ大変貴重な経験であったことを感謝しています。

松山教会は、ビデオでご覧になった通り故平岡伝四郎長老宅の家庭集会から立ち上がった教会で、その当時の教会堂から新たな会堂を献堂することは、献金しつつ役員と会員の皆さまの長年の願いでした。委員それぞれが情報を集めて、まず、敷地選びから始まり会堂の設計です。これがまた、大変で委員の希望や要望も様々で、暗礁に乗り上げたこともありました。故平岡靖久長老が「神様のお許しが無かったら会堂は建たんことがわかった」と、しみじみおっしゃったことがとても印象に残っております。ご自分の積年の熱い願

いがあったことからの振り返りの言葉だったのかもしれませんが。本当に神様の前に謙虚になられた信仰の姿勢に、それまで、長老として近寄り難い存在でしたし、若気の至りで反抗的な態度をとったこともありましたが、その信仰姿勢に尊敬の念と共に私にとってとても身近な信仰の先輩、親しみを感じる長老さんとなりました。

その後、上河原先生が辞職し柏原先生が松山教会の牧師として赴任されました。教会にとって会堂建築は大事業で、会員それぞれの思いが強く、真剣なだけにその違いも表面化し危機的状况にもなり得るとも聞いていました。新会堂が完成する前後に残念で悲しいできごともありました。共に礼拝を守り信仰の歩みを共にしてきた主にある兄弟姉妹たちが松山教会を去って行かれましたが、すべて神様の御心のみが、私たちの思い煩いを越えて成って進んでいき、すべてが相まって良しとなることを信じていきたいと思うのです。出られた方たちはそれぞれの教会で信仰生活を送っておられます。久しぶりにお会いすると、懐かしく、お互いことを現況を話し合ったりしています。

新会堂は、柏原先生の賜物が十二分に用いられ、また、建築会社の社長さんは、「全部浄財、つまり献金ですが、浄財で建てるんですね」といたく感心され、好意的に建築にあたっていただきました。そして、念願の新しい会堂が与えられ、感謝の内に献堂式を迎えることができました。

柏原先生は奥様の李恵姉の献身的な支えもあって19年間牧会され、役員たちもよく鍛えられたことは私たちのよく知るところです。

ところが、思いがけず李恵姉は難病を発症されました。李恵姉は移植手術を受けるなど懸命の闘病を経て地上の戦いを終え、天に見事に凱旋されました。李恵姉のことは通り一遍の言葉では表現できない悲しい地上でのお別れでした。

その間、柏原先生には看病と心労からでしょうか脳内のヘルペスに罹られ、普通なら元の状態には戻らないほどの重篤な状態でしたが、講壇に立てるまでに回復されました。発病時には闘病中の李恵姉の懸命のリハビリの支えがあったことも大きな力だったと思います。

柏原先生は李恵姉召天の後、ご自分の判断のもと松山教会の牧師を辞したことは皆さんご承知のとおりです。現在、お元気で高知でのお働きは本当に嬉しく、神様に感謝しています。

無牧になり、新たに牧師、田中茂樹先生が赴任されるまでの10か月間、代理牧師として吉田崇先生はじめ、仙台在住の首藤正治先生が1か月間、そして、久保先生にもご奉仕応援、多くの方々の助けと励ましを頂いたことは本当に感謝一杯でした。

しかし、毎月の4主日のうちの3主日の朝拝説教を長老方のご奉仕され、長老方のご苦労は大変だったと思います。

この頃のことを思い起こすと、柏原先生の発病から入院、治療期間中、何とか持ちこたえなくては、先生が復帰されるまで頑張らなくてはという思いでした。その時は、柏原先生が辞職されるということは全く考えていませんでしたので、何とかお元気に回復されることを皆で必死に神様に祈り求めたことでした。毎週の礼拝を守るため、長老方は、その頃は皆さままだ現役世代でしたから、それぞれの勤めの中、主日の講壇の説教を順番にご奉仕されました。この時、何とかがんばらなくちゃと、長老方はじめ執事の私たち、会員の皆様も一致した思いでした。会員一同が一つ思いであったと思います。当時は必死で余裕のない状況ではありましたが、今、思い出すと、懐かしささえ覚えます。そして、皆、同じ方に向けて一致した思いで歩んでいたことに、いざとなれば、私たち松山教会員は困難な状況にあるとき、キリストにある一致の内にお互いに重荷を負い、助け合う共同体として前進できると誇らしく、頼もしく思いました。そして、同時に牧師不在の不自由さと心細さも経験し、今更ながら牧師先生への感謝を覚えるときでもありました。

2009年度の年報の回顧と展望には、「私たち松山教会は、長く教会に仕えて下さった柏原先生が辞職されるという、困難な時を経験いたしました。しかし、そうした中でも、主が、私たちを支え続けて下さり、礼拝を守り続けることが出来ました。この主の守りを、心から感謝いたします。また、同時に、こうした困難な時にあっても、礼拝を維持していくために、長老はじめとして、執事の方々、奏楽者の方々、掃除奉仕の方々、車での送迎の方々と、様々な方々の奉仕によって支えられました。そして、祈祷会で、各家々

で、多くの方々の篤い祈りによっても、支えられました。これらの奉仕・祈りを、心から感謝致します」と記されています。

現在は久保先生をお迎えして、平穏な教会生活を送ることが出来ています。でも、現状を考えると、会員の高齢化や子供たちの学校生活に日曜日が使われ、若いお母さんも駆り出されること、世の様々な興味がそそられることなども増えて、私たちはどっぷりつかって、主日の礼拝が守りにくくなっていること。私などは、少し関わるだけと思っていたところ、時間も心も比重がそちらに多くなってしまって、反省どころか、これではいけないと怖くなることさえあります。

社会全体の変化とともに、価値観も変わってきました。こういった現状は私たちの教会だけではないと思います。

かつて経験した困難な状況とは違いますが、ある意味、霊的に困難な状況の中にあるのではないかと考えてしまいます。

松山教会は幼い子供たちが大勢与えられています。中会の信徒修養会でお互いの教会の現状や悩みを話し合った時、次世代を担う子供たちがいない、子供の声を聞くことがないという声を多く聞いたことから考えると、私たちの教会はとても恵まれています。教会の子供たちとして、信仰の成長を見守りたいものです。

昔、故平岡靖久長老からお聞きしたことですが、「子どもたちが教会を休むと、ちょっとここへ座れ」と言って教会出席を第一にした。「学校の成績のことは一切怒ったことはない」とおっしゃっていたことを思い出します。

私たちが欲しい物、目指すもの、学生時代なら良い成績、社会人なら成功経験や会社での昇進などなど、それを努力して求めること、向上心、それ自体は悪いことではないかもしれませんが、大切かつ欠かすことが出来ないものの選択を迫られるなら、それはイエスキリストを救い主と信じる信仰以外にないというゆるぎない確信が平岡長老の信仰だったのでしょう。

今、高齢のため礼拝出席がむつかしくなったり施設での生活を送っていらっしゃる方が段々増え、礼拝出席が段々、困難になってきています。今も昔も、婦人会の奉仕は清掃や食事に行事ごとに忙しいものでした。今、食事の奉仕に当たるとき、作り方や料理の基本的なことを沢山教えてくださったこ

とを思い出します。先輩姉妹たちは奉仕の一線を退いていたり、療養中であつたり施設での暮らしなのですが、バザーのおすしやお餅づくりをテキパキされていた当時のこと、表情とともに懐かしく思い出されます。ビデオでも見たとおりです。家のお姑さんと教会のお姑さん、信仰の先輩の姉妹方の姿に、私の行く道だともしみじみと思わされる今日この頃ですが、クリスクチヤンの交わりは世の人の交わりとは違ってお主にあつてお互いに信頼し合い、許し合つて交わりがなされたことを懐かしく思い出され、問安の時に本当に主にある兄弟姉妹としてあることに感謝しています。

今年の教会標語は「キリストの命溢れる教会」としています。外から見て、本当に魅力的な教会、私たちの信仰の姿がそのようであることを目指したいと思います。喜びに溢れ、生き生きとして礼拝を守る私たちの姿があるなら、外に向けての証し、伝道になると思うのです。

話は変わりますが、今からのお話は、私は食べること、おいしい物が大好きで、それだからという訳ではないのですが、私にとってはとても懐かしく暖かい気持ちになる思い出です。

それは、用事があつて平岡靖久宅をお訪ねしたところ、生憎、長老はご用でお留守でした。みゑ子姉にお話ししておいとましようとしたとき、帰つてこられました。丁度、12時になっていました。用件を話してホツとしたこともあつて、思わず、「ああ、お腹がすいた」と言つてしまいました。そうすると、「お腹すいたん、ええ物がある」とおっしゃつて、手にした包みを出されたのです。何とそれはおいしそうな握り寿司でした。それはみゑ子姉のお土産だったはずですが、「神様のお恵みじゃ。お食べ」とおっしゃつて、私の前にご夫婦で並んで座ると、ニコニコしてお二人で勧めてくださるのです。私は誘惑に負けて、その握り寿司に箸を付けました。半分だけと言つてちょっと遠慮もしてみましたが、「ええから、ええから」の言葉のまま、全部いただいてしまいました。本当においしかったです。おすしのおいしさもさることながら、お二人が暖かく、夢中で食べている私を極く自然体で、食べ終わるまでじつと眺めておられ、私も一人で食べることの何の違和感も感じず、心身とも満たされたことをほのぼのと嬉しく思い出されます。

私は個人を賛美したり、賞賛するのは控えたいと思っているのですが、松山教会の設立70周年記念という内内のことなので、思い出すままに、お名前を挙げさせていただきました。神様の前に主にある交わりとこのような信仰の先輩を与えて下さったことを感謝したいと思います。

母教会での信仰生活、子供の頃を含めて過ごした20数年余り松山に住み、言葉、習慣、県民性も含めて疎外感とか違和感を感じなくなり、地域にも馴染んできて、気が付くと20年経っていました。今では老人会のお世話や民生委員として地域のボランティアに関わりようになりました。また、義母の介護のとき、ボランティアの方や保健婦さんに助けて貰い、とてもありがたかったことから、義母亡き後、何か社会に貢献できることはないか、少々でもお返ししたいと思って、視覚障碍者の方たちのための朗読奉仕を始め20年になります。友人も沢山でき忙しいけれども楽しい時間も過ごせています。ちなみに、伊予弁で昔話や地域の伝説を後世に伝えようとする語りのボランティアの活動も通して、愛媛に愛着を感じているところです。

日々、いろいろな出来事の中で人間関係の悩みで反省することがしょっちゅうですが、なんととっても毎週の礼拝の恵みに与かり御言葉に励まされて、又、世に出て行く、何にもまして幸いであり感謝なことです。

松山教会員となって約40年過ごし、来し方を振り返って、人間関係で行きづまった時や自分自身の至らなさからくる困難な出来事などなど、どのような時でもいつでも戻る所は神様の下でした。苦しい時や行き詰った時に、涙ながらに祈ったこともあります。もう神様沢山です。と祈った時もありました。神様は、そのような祈りに必ず応えて下さる大いなる慰めと励まし、平安を与えて下さいました。主イエスキリストを救い主、私の贖い主と信じる信仰を与えて下さった神様の一方的な御恩寵を心から感謝いたします。これからの歩みを襟を正して、主イエス・キリストにお会いできるその日を望みみて、信仰生活を全うしたいと思います。

至らない私ですが、これからも皆様どうぞよろしく願いいたします。

(3) 松山教会での信仰の思い出、証

柏原繁宜

序論 はじめに

松山教会は、教会設立が主の1949年5月29日ですから、教会設立70周年を5月29日に迎えます。それで、5月26日の主日礼拝は、松山教会設立70周年記念礼拝ですね。その松山教会設立70周年記念礼拝で小野静雄先生が「イエスが私を呼んで下さる」と題しまして、御言葉を語ってくださいました。ほんとうに、素晴らしい御言葉でした。そのような、大切な時に、僕などが証しをしても良いのだろうかと思うのですが、少しだけ証しをさせていただきます。

I. 僕の思い出

松山教会は、主の1993年1月9日(土)に新会堂献堂式をしております。この新会堂献堂式で、平岡靖久長老が、献堂の辞をしておられますが、この献堂の辞には、本当に心を打たれるほどの素晴らしいものでありました。平岡靖久長老は、松山教会新会堂建築委員長として、以下の「献堂の辞」を献げています。少し、引用させて戴きます。

「愛する兄弟姉妹。私達の神は、御名の栄光とその民の益のために、教会堂建築の業を全て恵みの内に終えさせてくださいました。顧みますと、私達は、十三年前の教会創立三〇周年記念式典に於きまして、大きなビジョンを示されました。それは次の四〇周年記念に百人礼拝の実現と百人礼拝が可能な会堂の建築、献堂ということでした。」

・・・中略します。

今日まで様々なことがありましたが、主がこの松山教会をこよなく愛して下さり、特別な摂理をもって不思議な御業を顕して下さり、今、ここに献堂の時を迎えることができました。唯々感謝の外ありません。又、多くの兄弟姉妹方のお祈り、お励まし、そして、貴い御献金の、御支援のあったことを覚え、重ねて感謝申し上げます。そうして、数々の主の御恵み

を頂き、今日の喜びの日を迎えることができました。全能の主よ、私達は、今、謹んでこの会堂をあなたにお捧げ致します。今から後、この建物を主のものとして聖別され、主の聖い御用に用いられます。従って、これを誤って用いることなく、又、主以上に尊重して御名を汚してはなりません。この教会に平安がありますように。この教会で礼拝する人々に平安がありますように。この教会を愛し、また主イエス・キリストを愛する人々に平安がありますように。この教会に出入りする人々に平安がありますように。」

とあります。

そして、主の 1993 年 1 月 10 日（日）午後 2 時から、「教会堂献堂記念講演会並びにオルガン演奏会」としております。第一部は、記念オルガン演奏会です。オルガンを演奏してくださいました堀江光一先生は、桃山学院大学オルガニストであります。実は、この「教会堂献堂記念講演会並びにオルガン演奏会」のチラシには、「四国で初めて奉献されたアーレン・オルガンの豊かで厳粛な響きと、私達の心に深く訴えてくるバッハの演奏をぜひお楽しみください。」と書いております。この演奏の中の、バッハの「主よ、人の喜びよ」と「トッカータとフーガ」は僕も好きな曲でしたので、ほんとうに嬉しい思いでした。このアーレン・オルガンはほんとに素晴らしい音を出してくれますね。

会堂建築委員会で、オルガンを購入することを協議した時に、僕はパイプオルガンを入れたいものですから、そう言いますと、値段を聞かれまして、1 千万円くらいと言いますと、そんな高いものは買えるわけが無いということで反対されました。その時、入船和子委員から、確かアーレン・オルガンを紹介していただいたと思います。

松山教会には良い奏楽者の方々が与えられていますね。僕は讃美歌が好きですから、つい大きな声で歌いますが、調子にのって賛美しますと、説教の時に声が出にくくなったりして、妻の李恵から、「あなたは大きな声で賛美しないの。大きな声は出さないで、口だけ開けて賛美していなさい。」と注意されていました。しかし、僕は、礼拝での賛美が好きです。奏楽者の方々

が賛美のために、良き奏樂をして下さいますね。松山教会には、多くの奏樂者の方が与えられていることは本当に感謝ですね。

第二部が、記念講演会です。神戸鈴蘭台教会の牧師をしておられました入船尊先生を講師としてお迎えして、「まことの豊かさを求めて」と題しまして、記念講演をしていただきました。この「新会堂記念講演会並びにオルガン演奏会」のチラシには「物質的に豊かな日本にいる私たちは、その豊かさとはひきかえに、何か大切なものを失ってしまったような思いがいたします。講師の入船先生は、長い間インドネシアで伝道してこられ、物質的な貧しさの中にも、心の豊かさを持った人々と接して来られました。そのようなインドネシアでの生活をふまえながら、今日の時代に、本当の豊かさとは何か。私たちが求めなければならない「まことの豊かさ」の意味についてお話しをさせていただきます。」と書いてあります。

それから、松山教会は、エレベーターを付けていますね。これは、新会堂の設計をして下さいました「高岡建築研究室」の建築士の方から、アドバイスを受けまして、今、建築時にエレベーターを入れますと、安く入れられますよ、と言われて、お願いをしたのでした。高齢者になりますと、階段を上がるというのは結構大変ですね。そのためには、エレベーターを利用すると楽であると思います。

僕は、松山教会の週報に松山教会の教会堂のイラストを入れました。これは、松山教会を設計して下さいました建築士の方にお問い合わせして画いてもらったのです。これは実はもっと大きな絵でして、しかも、きっちりと百分の一の絵を画いてくださっているのです。

II. 僕の感謝なこと

僕には、松山教会では多くの感謝する事柄があります。松山教会で御言葉の奉仕をさせていただきました。本当に感謝でした。また、僕の感謝は、僕の説教を聴いてくださった平岡靖久長老から、礼拝後、「今日の説教は良かったよ。私の葬儀の時には、この説教をしてくれ。」と頼まれました。僕は非常に驚きました。平岡靖久長老の葬儀の時には、この箇所から説教させていただきました。その説教の聖句を一節だけ読ませさせていただきます。ヨハネによる福音書 11章 25～26節です。

イエスは言われた。私は復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない。このことを信じるか。

とあります。これで、終わらせていただきます。

結び 祈り

一言、お祈りさせていただきます。憐れみ深い天の父なる御神様、御名を心から賛美いたします。松山教会は、主なる神様の御守りと御導きのうちに、70周年を迎えました。本当に心より感謝いたします。80周年も90周年も100周年以上も迎えることができますように、主なる神様からの御守りと御導きをお願いさせていただきます。願わくば、この地におきましても、一人でも多くの方々に、御言葉を宣べ伝えて行くことが出来ますように、松山教会を用いて下さいますように、お願いいたします。このお祈りを、本当に、心から感謝させていただきます。私たちの救い主であります主イエス・キリストの御名によって、お祈りさせていただきます。 アーメン。

7. 寄稿

創立70周年おめでとうございます 新居浜教会 西田三郎

松山教会の皆様、このたびは教会創立70周年おめでとうございます。心よりお喜び申し上げます。松山教会のホームページの沿革を拝見しますと、松山教会は1947年に平岡伝四郎長老がご家庭を解放され、家庭集会から伝道を開始されました。2年後の1949年5月29日には早くもその家の教会として日本キリスト改革派松山教会が設立されました。伝道開始から2年で教会設立など今では想像もできませんが、1951年頃の家教会の皆様笑顔の写真を見ましても、松山教会の草創期に主が恵みをもって豊かに働いてくださったこと、そして教会創始者であられた平岡伝四郎長老をはじめとした皆様には、主の恵みに応える主にある強烈な熱心があったのであらうと想像します。私が宣教教師として7年間ご奉仕させていただきました新居浜伝道所の草創期にも、松山教会と同じような、主の豊かな恵みに応えた3名の学生や若い伝道者夫婦の働きがありました。教会創立70周年をお迎えになる皆様には、この70年の教会の歩みを守り導いてくださった主の豊かな恵みと、主の恵みに応えた教会創始者をはじめとした皆様の主にある熱心を思い返していただきたいと願っています。

私は今年2022年2月末日付で新居浜伝道所宣教教師を辞職し教師を引退しましたが、私のような者にも一文を寄せさせていただけますことを心より感謝し、松山教会の今後の成長とご発展を願ってご挨拶とさせていただきます。

二つの感謝

江古田教会 藤方一彰

松山教会設立 70 周年を迎えられましたこと、主にあつて共にお喜び申し上げます。

高校時代まで過ごした松山の地は私の生まれ故郷であり、関東に移り住んで 41 年目になる今も、心はいつも郷愁の思いに満ちています。

近所のスーパーマーケットで愛媛県産のミカンや鯛を見つけるととてもうれしい気分になります。

松山教会は私の母が所属する教会ですのでことさら親しみを感じます。

私の子どもたちが幼稚園・小学生の頃は妻と共に松山に帰省し、母と一緒に松山教会の元旦礼拝に出席したことを思い起こします。礼拝堂の右最前列には和服姿の故平岡伝四郎長老が凜とした様子で座っておられ、礼拝後にはいつも新年の挨拶をされたことを鮮やかに覚えています。

松山教会とのつながりについて二つの感謝を記します。

一つ目の感謝は、グループホームに入居している母を松山教会の小会を始め会員の皆さまが訪問し、聖餐式をして下さっていることです。聞いたことをすぐ忘れてしまう認知症の母にとって、会員の皆さまとの交わりは喜びであり、聖餐にあずかれることはなによりの目に見える恵みです。訪問の様子を松山教会のホームページにアップしてくださっていますので私も見ることができ、両親を見舞う機会が減った私にとっても慰めであり、喜び、感謝です。

二つ目の感謝は故上河原立雄牧師のことです。

江古田教会の牧師は今、5 代目の浅野正紀牧師です。江古田教会は 2 年半の無牧期間後、1990 年 4 月に 3 代目の牧師として上河原立雄先生をお迎えいたしました。松山の地から上河原先生を江古田教会にお迎えすることになろうとは、不思議な縁・導きを感じました。

江古田教会での上河原先生の在職は 1990 年 4 月 22 日～1999 年 1 月 24 日の 9 年間でした。江古田教会の兄弟姉妹一同、上河原先生のみ言葉のお働きを通して慰めと力を受け、深く感謝しています。

上河原先生が神戸改革派神学校を卒業されたのが 1956 年（昭和 31 年）。以来、三原伝道所にて 9 年、松山教会にて 25 年、江古田教会 9 年の計 43 年間の長きにわたって牧師のお働きを貫かれたこととなります。

神学校時代の同級生は石丸新先生（現・東関東中会引退教師）。そのこともあって、1998 年 12 月の東部中会の会議で上河原先生の教師引退願いが承認されたときに、議場を代表して石丸先生が送別と感謝の辞を述べられました。その一言一言はまこと、主にあつて篤き友情にあふれた、心に沁み入るものでした。故・上河原玲子夫人には花束が贈呈されました。

以上、二つの感謝を想いつつ、あらためて教会設立 70 周年をお祝い申し上げます。

教会設立 70 周年のお祝い

日本キリスト改革派教会 大会議長 川杉安美

松山教会創立 70 周年の記念礼拝・感謝会に、お慶び申し上げます。

私事ではありますが、10 年ほど前、当時の柏原繁宜牧師から特伝の講師に招かれて奉仕させていただいたことを思い出します。初めて会堂に入ったとき、何か厳かな感じを受けたことを覚えています。

「使徒言行録」は、使徒の言ったこと行ったことの記録としてその名で呼ばれています。しかし、むしろ聖霊の行ったことの記録として「聖霊言行録」と呼ぶべきだとも言われます。それならば、「聖霊が使徒を用いて行った記録」というのが最もふさわしいかもしれません。教会の歴史というものは、そういうものでしょう。聖霊なる神様が、平岡伝四郎長老をはじめとして、様々な人々を用いて松山教会を建て、導き、成長させ、歩ませてくださり、今日があるのでしょうか。70 年の歩みの中には、善いと思われることも悪いと思われることもあったかもしれません。しかし、その万事を神様が益になるようにしてくださり、今日の松山教会にしてくださり、この日を迎えるに

至ったことを覚えて、皆さんと共に神様を賛美いたします。その御業は、今後も豊かに続けられていくことを信じています。

特に、松山教会は松山市にあって、愛媛県全体の伝道を常に意識してこられ、新居浜伝道所を生み出したり、家庭集会に励んだりしているお姿に敬意を覚えます。しかし、今日にあってはどこも例外なく高齢化や契約の子への信仰継承の課題があると思います。四国の地における松山教会の取り組みに、主の祝福とお導きがあるようお祈りしつつ、期待をしています。

これまでと同じように、これからも松山教会を通して、主の御業が豊かになされ、主の御栄光があらわされますようお祈り申し上げます。あらためて、教会設立70周年、おめでとうございます。

2019年5月26日の感謝会を覚えて

8. 祝電・はがき一言メッセージ

(1) 祝電

松山教会の皆様

教会設立七十周年を迎えられましたことを、中会を代表いたしまして、心よりお慶び申し上げます。
七十年という歳月の中で、松山の地に、改革派信仰の芽を芽生えさせ、花を咲かせ、豊かな実を实らせてくださいました神様の大きな御名を崇め、讚美申し上げます。

さらに、これからの松山教会の伝道の働きが、主によって導かれ、豊かな実りと与えられますようお祈り申し上げます。
時代は、伝道にとって困難な時を迎えておりますが、先達たちの熱心でたゆまない伝道を手本としながら、今、教会を託されている者として、主に信頼し、主の助けを祈りつつさらに伝道が進展してまいりますことを切にお祈り申し上げます。

終わりに、
主イエス・キリストの恵みと、父なる神の愛と、聖霊の交わりが貴教会の上に豊かにありますようお祈り申し上げます。

主の二〇一九年五月二十六日

日本キリスト改革派四国中会

議長

中田 稔

日本キリスト改革派 松山教会 御中

主の御名を讃美いたします。

これは主の御業、わたしたちの目には驚くべきこと。

詩篇一一八編二三節

この度、貴教会が伝道開始以来、七〇年の歩みを当地において重ねられてきましたこと、主の驚くべき御業をほめたたえつつ、主を見上げ感謝をささげます。

主の恵みと平和が皆さまのうえに豊かにありますように。今後とも主にあるお交わりをよろしくお願い致します。

主に在りて

日本キリスト改革派 岡山教会教会員一同

日本キリスト改革派
松山教会の皆様

「ひとつのことを主に願い、それだけを求めよう。命のある限り、主の家に宿り 主を仰ぎ望んで喜びを得その宮で朝を迎えることを。」詩編27編4節

松山教会創立70周年を心よりお祝い申し上げます
主ご自身がその大いなる御手で松山教会をお建てくださり 主ご自身が御顔を向けて70年の歩みに伴ってください この素晴らしい恵みの日を迎えますことを覚えて 主の尊い御名を心より賛美致します
皆様のこれからの歩みも 主の変らぬ愛と祝福の御手に守られ 喜びいっぱい 目指しておられる「主の家」に益々近づいていかれますことを 心よりお祈り申し上げます

主の2019年5月26日
日本キリスト改革派
高知教会一同

お祝い

お届け台紙名『ハーモニー』
お届け日 05月25日午前

愛媛県 松山市 中一万町 6-4
日本キリスト改革派松山教会 様

主にあつて教会設立70周年を心からお祝い申し上げます。主の恵みが豊かにあつて、ますますのご発展をお祈りいたします。

〒760-0080

香川県高松市木太町4703-3

日本キリスト改革派高松東教会

(2) 松山教会設立 70 周年記念礼拝に寄せて

— はがき 一言メッセージ —

岡山西伝道所 (田村英典)

70 年の間、日本キリスト改革派教会、とりわけ四国中会の中核教会の一つとして尊い宣教の業に励んでこられたことを想い、感謝を禁じ得ません。改革派信仰に堅く根ざし、失われた多くの魂の救いのために、地域への愛をもって、ますます主の御導きの下、宣教の業が祝福されますよう、心よりお祈り致します。

坂出飯山教会

丁度、神学生をお招きしている日と重なったため、欠席となりました。更なる歩みが祝されますように！

徳島西部伝道所 (五宝友哉)

70 周年おめでとうございます。これからの松山教会の歩みが祝福されますように。(石田耕市・悦子、近藤、五宝、工藤、金エノク、小島、山崎、原田洋子・恵・輝)

善通寺教会 (速水清隆)

ご案内を頂き、感謝を申し上げます。宣教 70 周年を迎えられ、心よりお慶びを申し上げます。松山の地における福音拡大の砦として、御教会がいよいよ主に用いられますよう、祈ります。私達も御教会に倣いつつ、主の教会として歩ませていただきたいと願っております。

芸陽教会 (大宮季三)

70 年の歩みを主が導いて下さいました事を覚えて感謝申し上げます。四国中会にある教会として、これからも豊かなお交わりを主に願います。

宿毛教会 (牧田吉和)

70 周年おめでとうございます。四国中会で柱となる御教会のこれからの歩みの上に主の豊かな祝福を祈ります。

中山 明 (湖北台教会)

70 周年を迎えられたこと、心よりお祝い申し上げます。主のご栄光を証しする教会として益々のご発展をお祈りいたします。主に在りて。

藤田悦子（新居浜伝道所）

主の導きのもと、信仰を守り継がれてこられました 70 周年おめでとうございます。どうぞこれからも伝道の働きが祝福され、ますます発展されます様、お祈りいたします。

田中経子（新居浜伝道所）

主の御名を讃美いたします。70 周年の歩みを迎えられ、おめでとうございます。これからも先生、皆様お一人お一人のご奉仕を神様が祝福し、またいつも支えて下さいます様にお祈りしています。主に在りて。

高市 恵（松山教会）

ご案内有難うございました。折角ですが、同日所用にて伺えません。皆様にもよろしくお伝え下さい。

大山厚子（松山教会）

教会の御発展をお祈り申し上げます。

八束真子（松山教会）

70 周年おめでとうございます。主の豊かな導きが、松山教会にこれからもありますようにお祈りします。

9. 70周年記念賛歌（五月の風）

入船 聰・和子

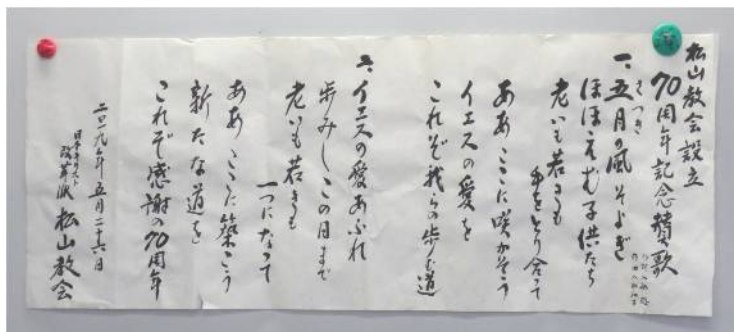
松山教会設立70周年記念賛歌

(入船聰作詞)

(入船和子作曲)



- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1. 五月の風そよぎ ほほえむこどもたち | 2. イエスの愛あふれ あゆみしこの日まで |
| 老いも若きも 手を取りあつて | 老いも若きも ひとつになって |
| ああここに咲かそう イエスの愛を | ああここに築こう 新たな道を |
| これぞわれらの 歩む道 | これぞ感謝の 70周年 |



10. 70周年を迎えての信徒の所感



70周年を迎えて

石崎照子

主のお恵みに支えられ松山教会設立70周年を迎えることに、深い喜びと感謝を捧げます。私のような稚拙な者が、神様の救いの中に加えられ、遅々たる歩みではありますが松山教会の信仰の群に加えて頂いていることに心がふるえます。この愛すべき教会が松山の地で祝福され続けるためには、契約の子供達が確固たる信仰を継承し、主に喜ばれる存在であり続けるよう持続的な信仰教育が必要であると切に望んでおります。また、毎主の日に礼拝堂に豊かに響き渡る美しい賛美の歌声に心が和み、恵みと癒しに包まれます。今後、一人でも多くの方が主によって救われ、私共の群に加えられ、益々神様の御業が示され、喜びの溢れる信仰生活が与えられますよう、主が松山教会を守り、導いてくださることを確信し、主に永遠に祝福される教会でありますよう祈り求めて参りたいと願っております。

「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。」(テサロニケの信徒への手紙一 5章16～18節)



70周年記念に寄せて

市川良子

松山教会に帰ってきて40年以上になります。主人がなくなって寂しい時でした。子供も1歳8か月の時で、礼拝は守っていても頭に入らない状態でした。受洗してから55年近くになりますが、私が神様を忘れ

ていても神様が私を捉えて育んでくれました。これから何年この地上に
いられるかわかりませんが、天に召される日までできる限り教会に行く
ことが許されて歩んでいきたいと思っています。



70周年を迎えて

今西靖子

松山教会設立70周年を迎え、主が私たちの教会に注
がれる恵みを心より感謝し、御名を崇めます。私が松
山教会に転入したのは、1989年の秋でした。88
年のイースターに宿毛教会で受洗し1年半の時です
た。それまでの仕事を辞め、一人で生きる決心をして松山に出てきたの
でした。それから30年、主は私に一人で生きる道ではなく、人生のパ
ートナーを与えて下さり、新しい家族を与えて下さいました。教会にお
いても、青年会から婦人会、教会学校、執事とその時々に関与を与え、
主の日の礼拝、説教、兄弟姉妹の信仰の姿勢、交わり、祈り、様々な出
来事を通して、その只中に生きて働いておられる主と御言葉の真実を実
感させて下さいました。『主は教会を通してその群れを養い、その歩み
を導き支えて下さる。』これから80年、100年と松山教会の歩みを主
が祝福して下さいますことを信じます。そして、私も主の助けと導きを
頂きつつ共に信仰の道を生涯を終えるときまで歩んでゆきたいと願
います。



創立70周年に寄せて

入船和子

教会創立70周年記念礼拝を、2019年5月26日に、
小野先生をお迎えして、礼拝を捧げ、私も今年70歳、
教会と共に生きてきました。祝会で私も、教会と共に
歩んできた70年を振り返り、証しができましたこと

は、私にとって意義深いことでした。今、ここでは、現在思っていることを少し綴りたいと思います。人生には大きな節目があります。64歳の時肺癌の手術を受け、いかにガンと闘い、治すか、必死でした。礼拝でも一番の後席でマスクをして出席することが続きました。奏楽が始まりオルガンの音色に耳を傾けた時、もう私には奏楽の奉仕ができないのだ、と思うと涙がこぼれるのでした。しかし、6年経った今は、寛解状態にあり、他の病も見つかった状態ですが、私の周りにガンを悲しがっている人が増え、共に語り励まし会っていく中で、私も教えられ、喜びも感じています。私も神様から生かされて、用いられる場があり、愛を一杯頂いていることを感謝しています。神様の見えざる御手と計画を覚えます。教会の発展を心より願っています。



老兵は唯消えゆくのみ、されど…

入船 聰

1968年4月、キリスト教主義松山城南高校に勤務と同時に松山教会での信仰生活が始まった。青年会活動を通して現在の妻と人生を共にすることとなった。当時は男性、女性共多士済々。個性豊かな学生、社会人が楽しく活発な青年会であった。今とは隔世の感である。今や少子化、情報過多、価値観、社会状況の激変等様々な要因から従来 of 青年会は期待し難い。それだけに、家庭での限られた時間を有効に使った交わり、信仰の語らい、礼拝への誘(いざな)いといったことが大切になってくる。信仰の継承もこれらの積み重ねによってなされると信じる。だが、松山教会の現状を思うと、将来が心配である。少ない青年層、壮年層、多い老年層の年齢構成の中で80周年、90周年への展望を見出していかなければならない。記憶力、理解力、発想力が低下していく中、老年には何が出来るだろうかと考えあぐねている日々である。

信仰の 先達の跡 想起して 難き道をも 尚歩み行かん



松山教会での信仰生活

入船加恵

結婚をして松山教会の会員となり22年が経ちました。神様を忘れることの多い私でしたが、日曜日の朝はバタバタと準備をしてなんとか子どもと一緒に教会に通い続ける事ができました。全員が行けない日もありましたが、日曜日の礼拝を大切に思いながら過ごすことができたかなあ、と振り返ります。そして、嬉しいことに子ども達みんなが信仰告白に導かれました。神様の導きとみなさまの祈りに心より感謝しています。松山教会には尊敬する方がたくさんおられます。少しでも近づけるように見習って祈りながら成長していきたいです。また、松山教会から福音が伝えられるお手伝いを積極的に行いたいと思います。オルガン奉仕も許される限り続けて、先輩と賜物のある若い方とともに励ましあいながら頑張っていきたいと思います。これからもイエスキリストを中心として、一人一人を大切に思う、思いやりのあるあたたかい松山教会でありますようにと祈ります。



懐かしい思い出

入船 真

神様の導きにより松山教会が出来て70年。子供の頃に通っていた旧会堂は小さな木造の建物で窓からは陽射しがよく入り、狭いながら温かみのある会堂だったと記憶している。日曜学校は子供達が10人くらいはいただろうか。日曜学校の校長先生である靖久じいちゃんが、ダビデとゴリアテの話や、ザアカイの話など色々な紙芝居をしてくれて何度聞いても面白く、いつも楽しみにしていた。また、大人の礼拝の後には会堂の長椅子を移動させて卓球台を出してきてみんなで卓球に熱中したり、大人の礼拝後に時々出てくる美味しいカレーが楽しみだったり懐かしい思い出がたくさん詰まっている。時の流れで新会堂となっている

が神様に守られながら先人達が繋いできた松山教会という葡萄の樹の枝に連なっていることを改めて神様に感謝したい。



『わが魂よ、主をたたえよ。主の御計らいを何一つ忘れてはならない。』（詩編103：2）

入船佐奈江

私は22才の頃、肋膜炎になり松山赤十字病院に7ヶ月入院をしました。治療の後、回復して退院も近くなった頃に外出を許されました。外気を吸う喜びに満たされて病院の近くを当てもなく歩いていた時に、目に留まったのが松山教会でした。その時の会堂は平屋建築の小さな物でしたが、玄関の入口の上に、日本基督改革派教会と書かれた大きな文字が印象に残っていました。それまでも私は、他の教会に行っておりましたが、何故かこの教会が気になり、退院後は松山教会に通うことになりました。宮道夫牧師の懇切丁寧な教えを受け、主の導きによって1956年に受洗しました。ここが私の信仰生活の出発点です。それから多くの兄弟姉妹に祈られ助けられた、主の御計画の中を歩ませていただきました。松山教会の祝福を祈ります。



70周年を迎えて

久保 薫

20年以上も前、私たち家族の四国中会での最初の教会となった新居浜伝道所において、初めて松山教会と出会いました。愛媛県にあるただ二つの改革派教会として、そして何よりも、新居浜伝道所を生み出した教会として、松山教会は、頼もしい存在でした。教会学校の夏のキャンプや、秋のりんご狩りなど、ちょうど小さかった我が家の娘たちも、ご一緒させていただきました。松山・新居浜合同修養会は、今も続いています。新居浜を離れ、十数年を経て、松山教会へと導かれるとは、夢にも

思いませんでしたが、そこが神様のご計画の計り知れないところなのでしょう。70周年を迎えるこの時に松山教会に置いて頂いていることにもみ旨があるのだらうと思い、今後も主のお導きのままに小さな歩みを続けられるようにと祈っております。



70周年を迎えて

高井洋子

教会設立70周年を覚え、今日に至るまで松山教会に神様の守りがあったことを心から感謝いたします。戦後5年足らずという時期に、キリストを仰ぎ従うという大きな召しに生きた方々の思い。それを今一度思い起こさねばと思うばかりです。50周年記念誌に寄稿した頃の私は、こどもが小さかったこともあり、教会学校の奉仕を通して主を深く知る時でした。それから20年。子の成長と自立の時を経て、再び自分が聖書に向き合う日々が与えられています。田中牧師・久保牧師と、説教や祈祷会で旧約聖書を取り上げてくださり、聖書の一貫性に今更ながら目が開かれ感謝です。今も昔も「神を忘れる」という罪を繰り返す私たちを、最上の愛と憐れみを持って救いへと導き招いて下さる主に、これからも従って行きたいと願っています。時代の中で繰り返してきた過ちを、再び起こすことの無いように。



信仰の歩み

立花俊彦・エミコ

『あなたの庭で過ごす一日は千日にまさる恵めぐみです。(詩編 84:11)』福岡市城南教会の長老だった父が贈ってくれた聖句の通りに行きたいと思います。昭和34年に就職して松山に来た時、父の紹介で日本キリスト改革派教会の宮先生を尋ね

た時から礼拝に出席し、その後洗礼を受けました。同じ会社のエミコも教会に来るようになり、受洗して結婚しました。当初より、平岡伝四郎長老、靖久長老、みゑ子姉、青年会や他の兄弟姉妹の温かい交わりに感謝しています。家族は長男、次男と幼児洗礼を受け、中学生の時信仰告白をしました。高校では部活で欠席することが多かったです。二人とも東京の大学に行きましたので、その後、親二人で生涯を教会に委ねることになりました。昭和63年に転勤のため、つくばみことば教会に移籍しました。平成4年に帰松した時、立派な教会が建築されていて驚きました。上河原先生から柏原先生に替わられていました。平成8年に東京転勤になりましたが、松山教会に籍を置いたままで、東京恩寵教会に出席していました。平成12年に定年退職で帰松して現在に至っています。宮先生、上河原先生、柏原先生、田中先生、久保先生とご家族に大変お世話になりました。教会生活が今年で60年になりましたが、神様に召されるまで、松山教会で平安に過ごされるようにと祈っております。教会の牧師先生とご家族、信徒の兄弟姉妹の皆さまの上に神様の豊かなお恵みがありますようにお祈りいたします。松山教会の設立70周年、主に感謝です。



私の30年の歩み

田村多津子

松山教会70周年おめでとうございます。私もクリスチャンになって30年、しかもその大半を松山教会で過ごしたことになります。松山に来た当初は、柏原先生が牧会されておりご夫妻には息子ともども大変お世話になりました。特に李恵夫人は愛あふれる人柄で、いつも暖かい心遣いを頂きました。また我が家で家庭集会を始めることができ、友人・知人と共に、聖書の学びや交わりの時が与えられたことはとても感謝しています。教会学校の奉仕では、子供より自分の方が学ばせてもらっていると気づいたり、子育てで悩んだ時には、真剣に神様と向き合うきっかけにもなりました。執事になってからは、信仰の先輩達がいかに教会

を大切に思い、またいかに真剣に信仰を守り続けているかを知ることになりました。さらに教会の様々な行事では、子供達の笑い声と共に、兄弟姉妹と楽しい時を過ごしたことを思い出します。この30年間、神様が共にいてくださったから、辛いことがあっても、笑顔と共に乗り越えられた気がします。これからも神様を見上げて歩んでいきたいと思えます。



伝四郎長老の伝説

田村 実

この教会の歴史を振り返るとき欠かせない人物、それは平岡伝四郎長老（1887-1983）でしょう。松山教会は彼が始めた家庭集会在基になっています。私は長老に面識はありませんが、いくつかのエピソードを聞いています。有名なのは空襲に遭った時、聖書だけを持って避難したという話です。さらに私は特に以下の話に感銘を受けました。

一つは、彼が祈るとき、まるで神様に酔っているようだった、という証言です。どんな境遇にあっても、ひとたび祈り出すと、殆ど恍惚状態にあるように周りの人には見えたとのことです。神様に酔うーこれは、彼が真に神と深い交わりを持った人であったということでしょう。

もう一つは、死期が近づいて周りが「死なないで」と言ったのに対し「死ぬことは大したことでない。それは隣の部屋へいくようなものだ」と答えたという話です。時に地上にいながら天国にいる境地の信徒がいると聞きます。彼も魂が天国にあるのだから、肉体の有無は問題ではない、という心境だったのでしょう。

信徒は本来、守るべきことがたくさんあると聞きます。けれども、根本となる大事なことは、多くないように思います。70周年の節目に、この先達のことを思い起こし、もう一度原点を見つめ直したく思います。



70周年記念を迎えて

平岡光司

今年、5月の教会70周年記念礼拝を小野静雄先生ご夫妻をお迎えしまして、数多くの兄弟姉妹と共に祝うことができ、神様に感謝いたします。先生のお話の中に、祖父伝四郎長老、また父靖久長老の色々懐かしい事などお話に出できて、暫く祖父伝四郎長老の昔祖父から聞いたことや、父から聞いたことが後日、ずっと頭の中に思い出しました。宮先生、上河原先生の幼いときの思い出も不思議と覚えています。特に祖父の話は父から色々聞きました。明治二十年に生まれて九十六歳天に召される迄、戦争中厳しい環境信仰生活貫き空襲のとき聖書を持って逃げたそうです。父は普通の人には通帳やお金食料等、身の回りの物を持って逃げるけど、祖父は聖書を持って逃げたそうです。また祖父は戦時中に憲兵に連れて行かれ、キリスト教の事を問いただされ、祖父は堂々自分の信仰を貫き通しました。父も祖父の信仰を見事に受け継ぎ、教会生活を日常の中で一番にして、「死に至るまで忠実であれ。」ヨハネ黙示録二章十節は教会墓地の隣にお墓に刻まれています。幼いときから日曜学校に有無を言わさず、連れて行かれて、どんな事があっても、教会生活が一番とずーと言われてきました。今、自分の信仰の歩みを振り返ってみては、神に対する祈りの少なさ、教会奉仕の働きの足りなさを覚えますが、主の恵みと神様の御慈愛の深さ、広さを知れば知るほど、働きに弱さを痛感します。大きな悩みの日常生活に、苦しみ主に祈り助けを求めても、解決できないときなど若い時自分は信仰の思いは薄れて、主に頼る心は遠のいて行くこともあったと思います。あくまで、主の助けがあることを確信して信頼を持って助けを待てば、必ずその時は来ると信じ、神の助けがあることを、今日までの信仰の歩みで教えられました。今も色々悩んでいますが、また、いつか解決へと神様が導いてくださると信じ祈ります。伝四郎長老が家庭集会を始めて、今ここに70周年の松山教会の歴史が刻まれてきました。祖父から現在五代と信仰を受け継がれています。今後も六代・七代と信仰が受け継がれて、キリストの愛に包まれて今後も信仰生活を守られるように、日々祈り続けます。



祝 70 周年 信仰の先輩達に感謝

平岡栄司

子どもの頃から多くの先輩たちに教えられ支えられて教会と共に歩んできました。日曜学校で学んだ事や青年会で他の教会の人達と交流したことなど、今となっては本当に役立っています。70年振り返れば、長いようで短い年月だったかもしれません。その中で、多くの信仰の先輩たちが教会を守って下さり、立派な会堂を建築してくださり感謝です。会堂建築には、「100人礼拝」という大きな目標を立て、100人座れる席を用意されたり、将来多くの人が年老いていくということでエレベーターを設置したり、素晴らしい音色の電子オルガンを用意され、礼拝するには最高の器が与えられました。しかしながら、未だに100人礼拝は守れず、空席が目立つ時もあります。今一度100人礼拝ができるようみんなで努力しようではありませんか。これを機に信仰の先輩達の思いを振り返りましょう。



未来をみつめて

平岡あけみ

久々に書棚を整理している時に、義祖父と義父の冊子に手が止まり暫くの間、目を通していました。70周年の今、久しぶりにお二人の声が聞こえたような気がします。「教会が1番だよ」と。日々の雑用に追われ、1番大事なことを疎かにしていました。反省しています。そして、傲慢で信仰の成長がない私を守り導いて下さる私を守り導いて下さる神様と教会の一員に加えて頂いていること、子ども達の信仰も教会の皆様で育て頂いている事を感謝致します。これからも続く信仰の歩みが100周年を迎えた時、義祖父からつないだ信仰の灯火が灯されていますよう祈りたいと思います。



一番大切なこと

本宮 愛

教会創立70周年おめでとうございます。この松山教会は、曾祖父の伝道から始まりました。戦火の中、一冊の聖書を片手に逃げ、拷問にも屈せず信仰を貫いた曾祖父の話を、小さいころから何度も聞かされました。「人はパンだけでいきるものではない。人は主の口から出るすべての言葉によって生きる」という聖句を、生きざまを通して教えられました。また、祖父からは、「人間は心が一番大事」ということを教えられました。人は、物質的な豊かさで幸せを感じるが、物質的な豊かさは儂いもの。天に宝を積みなさいと。しかし、信仰の浅い私は反省ばかりの日々ですが、先人達の教えを胸に、神様への感謝を忘れず、自分の賜物を活かしていけるよう、これからも歩んでいきたいと思えます。



70周年記念に寄せて

平岡みゑ子

教会創立70周年を心より感謝申し上げます。終戦後、神戸から帰松された平岡伝四郎長老がミッションスクールの松山東雲高校の3人の学生さんと自宅で家庭集会を開いたことが、後の松山教会の原点になります。当時は、モーア宣教師や神戸神学校の学生さんのご奉仕を頂いて、家庭集会が続けられていました。当時の写真を見ると、木造の素朴な教会の前に、若かりし頃の入船尊先生（当時愛媛大学生）や、多くの学生さんや青年も写っており、当時が鮮やかによみがえり、懐かしく思い出され、時の流れを痛感します。今後、松山教会に一人でも多くの方々が招かれるよう、お祈りしております。



教会の原型

水谷房雄

イエス・キリストは夜を徹して祈られ、12使徒を選ばれた。ペトロ(岩)と名付けられた漁師シモンの歩みは岩と呼べるものではなかった。「牢に入り、死ぬまでもあなたに従います」と豪語したその直後、3度もあなたを知らないと否認した。ボアネルゲス(雷の子ら)とニックネームをつけられた同じ漁師のヨハネとヤコブは、一行がサマリヤの村を通るとき、天から雷を落として、村を潰してしまおうと提案するほどの短気者だった。熱心党のシモンはローマに敵対する愛国者テロリストだった。マタイは魂をローマに売り、税をかすめ取って私腹を肥やす徴税人だった。当時、徴税人は罪人と同義だった。トマスは復活の主に出会って、「あなたの十字架の釘あとに手を入れて見るまでは信じない」と言った不信の徒だった。イスカリオテのユダは銀貨30枚でイエスを売った。このような人たちが教会の原型を構成していた。使徒はギリシャ語でアポストロスと言われ、その動詞はアポステッローで派遣するという意味である。キリストはそのような欠けの多い弟子たちを選び、用いられた。私達も、とても欠けが多い。教会設立70周年を迎えた今、このところで、私達もキリストの恵みを伝えるために派遣されていることを覚えたいと思う。



70周年を迎えて

藤岡純子

松山教会設立70周年おめでとうございます。私は現在、群馬県前橋市で暮らしております。残念ながらこの群馬県には改革派教会がありませんが、毎週日曜日はキリスト教団の前橋教会で礼拝を守らせていただいています。松山教会からは毎月週報やリジョイスを送っていただき、

いつもお祈りに覚えていただいて本当に感謝しています。先週も松山教会の姉妹から70周年記念礼拝のお説教のCDを送っていただいて聞かせていただきました。私が松山教会へ出席するようになった時まず感じたのは、何と親せきの多い教会だなーということでした。私は先祖も今の家族も誰一人クリスチャンが居なくて、一応四人の子供達は幼児洗礼を受けていますが、一人も教会へ足を向ける子供はおりません。送っていただいたCDのお説教を聞きながら改めて松山教会の一步を始められた平岡伝四郎兄の信仰と、ずっと信仰を継承してこられているということに感動させられています。2011年の4月から約5年間、松山教会に出席させていただきました。松山教会での皆様の優しいお顔やお姿を懐かしく思い出します。皆様の上に神様のお守りがいつも豊かにありますように、ご健康をお祈りしています。



松山教会との出会い

八東 真子

2009年八月末に松山へ引越しして来ました。翌月初めて松山教会へ行き、その月は一か月間首藤先生が牧会をされた月で、私を改革派教会へ導いて下さった宮田先生と縁深い先生と知り、導きを感じ忘れられない出来事です。度重なる引越しで複数の教会の礼拝に集わせて頂いていますが、私は松山教会ではいつもしている、「罪の許しの勧告と祈祷」を読む時、とても心新たにさせられます。特に「私たちはしなければならぬことをせず」の下りの文章は、一週間を振り返り自分の汚い面に気づき、それでも許され生かされている神さまの愛を感じる祈りだと思えます。教会によって少しずつ礼拝が違いますが、私は松山教会の礼拝がとても好きです。また神さまの導きで松山教会へ通うことができますように、お祈りします。



松山教会 70 周年を迎えて

和田一麦

1992年12月20日新会堂最初の礼拝がクリスマス礼拝でした。その時の嬉しさと感謝は今でも忘れられない最高の思い出です。それから27年が経過。教勢が少しずつ減少しています。理由はいろいろあるでしょうが、全教会員で今後のことについて一度話し合うべきではないでしょうか。70周年を機会に50人礼拝を目標にして、教会員一人一人が万難を排して聖日の礼拝へ出席しましょう。



教会設立 70 周年の節目に

和田紀子

教会設立 50 周年から、早、20 年、70 周年を迎えた今、その実感がありません。これまでの歩み、その霊的・信仰の歩みを振り返ると、実感が感じられないのも当たり前かもしれません。反省あるのみです。70 周年の節目に今一度、思いを新たにして、ゴールを目指し、馳せ場を走り抜くことができるよう、お導きを祈りつつ歩んでいきたいと願っています。ヨハネ黙示録 22 章 12 節「見よ、わたしはすぐに来る。報いを携え来て、それぞれのわざに応じて報いよう。」20 節「これらのことを証しする方が仰せになる。『しかり、わたしはすぐに来る。』アアメン。主イエスよ。来たりませ。」

1 1. 伝道集会のあゆみ

日時	講師	説教題	聖書箇所	人数
1999.5.30(日)	入船 尊 (鈴蘭台教会)	「ただ一つの慰め」 ～教会設立 50 周年記念～	マタイ 6:36~46	83 名
11.7(日)	三野 孝一 (札幌教会)	朝：「苦悩の中でも、ここに 喜びあり」	テサロニケ 5:12~28	54 名
		午：「弱くとも小さくとも」	コリント二 2:1~10	24 名
2000.5.28(日)	長田 詠喜 (高松東教会)	朝：「神の愛、人の愛」	ヨハネの手紙一 4:7~21	47 名
		午：「隣人を愛する」	ローマ 13:8~10	33 名
10.29(日)	安田 吉三郎 (前神港教会)	朝：「神の家を目指すたび」	詩編 23:1~6	52 名
		午：「神の御心を深く思う」	詩編 77:1~21	25 名
2001.5.27(日)	小野 静雄 (多治見教会)	朝：「信は不信より強く」	マルコ 9:14~29	49 名
		午：「いのち芽生えて」	ヨハネ 20:11~1	30 名
10.29(日)	三神 善樹 (丸亀伝道所)	朝：「貧しい者は幸いです」	マタイ 5:1~3	53 名
		午：「悲しむ者は幸いです」	マタイ 5:4	29 名
2002.5.26(日)	春名 徹夫 (岡山教会)	朝：「このままの救い」	ルカ 15:11~32	42 名
		午：「裏切られることのない愛」	マタイ 5:33~37	39 名
10.27(日)	首藤 正治 (高松教会)	朝：「キリスト教あなたも信 じられる」	使徒言行録 17:16~24	60 名
		午：「こうして私はキリスト 教を信じた」	マタイ 13:18~23	28 名
2003.5.25(日)	橋谷 英徳 (伊丹教会)	朝：「驚くべき恵み」	ルカ 15:1~7	44 名
		午：「主の恵みに生かされて」	マタイ 5:3	29 名
10.26(日)	中村 秀樹 (宿毛伝道所)	朝：「信仰によって生きる」	フィリピ 3:10~11	49 名
		午：「今を生きる」	マタイ 6:25~34	23 名
2004.5.23(日)	岩崎 謙 (神港教会)	朝：「キリストに守られて 人生を変える」	ルカ 1:26~38	51 名
		午：「キリストに結ばれて、 人生をやり直す」	コリント二 5:16~21	30 名
10.16(土) 10.17(日)	宮武 輝彦 (芸陽教会)	「ぶどう園の労働者たち」	ヨハネ 13:1~11	37 名
		「弟子の足を洗われたお方」	マタイ 20:1~16	49 名
2005.5.21(土) 5.22(日)	小出 昌司 (新居浜教会)	「蒔かれた御言葉に聞く」	マタイ 13:1~9	38 名
		「あなたの隣人とは誰か」	ルカ 10:30~37	46 名

10.22(土) 10.23(日)	吉田 崇 (坂出飯山教会)	「救いがあなたを訪れる」 「神はこの世を愛された」	ルカ 19:1~10 ヨハネ 3:16	38 名 46 名
2006.5.27(土) 5.28(日)	西 牧夫 (灘教会)	「いと小さき者へ」 「光と闇」	マタイ 25:31~46 コリント二 5:17	33 名 53 名
10.28(土) 10.29(日)	松田 基教 (高松教会)	「真の希望に生きる」 「真の慰めに生きる」	ローマ 5:1~5 コリント二 1:3~7	38 名 53 名
2007.5.26(土) 5.27(日)	安田 吉三郎 (前神港教会)	「老いてゆく人々への福音」 「すべての人に対する神の愛」 ~ジュネーブ詩編歌講演~	ヨハネ 3:1~21 ヨハネ 3:1~21 14:00~	35 名 36 名 29 名
10.27(土) 10.28(日)	木下 裕也 (名古屋教会)	「羊飼いの愛」 「父の愛」	詩編 23:1~6 ルカ 15:11~24	36 名 36 名
2008.5.24(土) 5.25(日)	吉田 隆 (仙台教会)	「痛みにふれる方」 「もう泣かなくてもよい」	ルカ 5:12~16 ルカ 7:11~17	40 名 46 名
10.25(土) 10.26(日)	川杉 安美 (綱島教会)	「聖書の語る希望」 「聖書の語る愛」	ルカ 23:32~43 ヨハネの手紙一 4:7~12	35 名 47 名
2009.5.30(土) 5.31(日)	牧田 吉和 (山田教会)	「明日を生きる力」 「ただ一つの慰め」	マタイ 6:25~34 ローマ 14:7~9	30 名 41 名
10.24(土) 10.25(日)	中田 稔 (岡山西伝道所)	「人生は出会いで決まる」 「ただひとつの慰め」	ルカ 10:1~10 マタイ 6:25~34	32 名 34 名
11.29(日)	トビー・デベット	「伝道的な教会」	~伝道セミナー~	17 名
2010.5.29(土) 5.30(日)	風間 義信 (江古田教会)	「信じることのすばらしさ」 「あなたならではのすばらしさ」	コヘレト 5:17~19 ヨハネ 21:20~24	39 名 58 名
10.30(土) 10.31(日)	酒井 啓介 (宿毛伝道所)	「神の愛をあなたに」 「キリスト教の中心」	ルカ 19:1~10 マタイ 22:34~40	37 名 56 名
2011.5.28(土) 29(日)	田中 茂樹 (松山教会)	「体の癒しと罪の赦し」 「あなたの人生は誰のもの」	マルコ 2:1~12 マルコ 12:1~12	36 名 46 名
10.29(土) 30(日)	久保 浩文 (高知教会)	「人生の安全保障」 「思い悩まずとも」	ルカ 12:13~21 ルカ 12:22~34	34 名 45 名
2012.5.26(土) 5.27(日)	山村 貴司 (南与力町教会)	~無神論者から牧師へ~ 「生きておられる神」 「道・真理・生命」	列王記上 19:1~8 ヨハネ 14:6	36 名 39 名
10.27(土) 10.28(日)	宮武 輝彦 (芸陽教会)	「失われた息子のたとえ」 「迷っている人を思いやる大祭司」	ルカ 15:11~24 ヘブライ 4:14~5:10	37 名 43 名

2013.5.25(土) 5.26(日)	片岡 継 (徳島教会)	～愛するということ～ 「敵を愛すること」 「神と人を愛すること」	マタイ 5:43~48 マタイ 22:34~40	28名 36名
10.26(土) 10.27(日)	相馬 伸郎 (名古屋岩の上教会)	～人は絆なしに生きられない～ 「神と絆を結ぶ方法」 「人は絆によって生きる」	コリント二 5:17~20 ヨハネ 4:4~26	29名 32名
2014.5.24(土) 5.25(日)	大塚 喜久蔵 (元インドネシア宣教師)	～あなたとあなたの富は誰のものか～ 「愚かな金持ちのたとえ」 「放蕩息子のたとえ」	ルカ 12:13~21 ルカ 15:11~32	30名 32名
10.18(土) 10.19(日)	石本 耕一 (徳島西部教会)	～ふたつの愛～ 絵本「大きな木」より 「大きな木とパウロ」	ヨハネ 10:11 テサロニケ一 2:7~12	31名 34名
2015.6.27(土) 6.28(日)	久保 浩文 (松山教会)	～まことの神とは～ 「まことの神」 「道・真理・命なるイエス」	使徒言行録 7:16~31 ヨハネ 14:6~11	28名 43名
10.24(土) 10.25(日)	柏木 貴志 (岡山教会)	～イエスに出会った人々～ 「最初にイエスの弟子になった人たち」 「旅の最後にイエスが出会った人」	マルコ 1:16~20 マルコ 10:46~52	35名 42名
2016.6.25(土) 6.26(日)	久保 浩文 (松山教会)	～大切な自分を生きていますか～ 「たいせつなあなた」 「たいせつなきみ」	マタイ 6:25~34 ローマ 14:7~9	26名 49名
11.26(土) 11.27(日)	牧田 吉和 (宿毛伝道所)	～あなたの人生は変えられる～ 「人生を変える涙」 「天国のパスポートを持つ者」	ルカ 7:36~50 フィリピ 3:17~4:1	30名 48名
2017.6.24(土) 6.25(日)	久保 浩文 (松山教会)	～あなたの夢は何ですか～ 「人生の勝利者とは」 「あなたの夢は何ですか」	フィリピ 3:4~9 フィリピ 1:20~21	22名 36名
11.28(土) 11.29(日)	坂尾 連太郎 (南与力町教会)	～大切なあなたという存在～ 「見失った一匹のために」 「父なる神の愛」	ルカ 15:1~7 ルカ 15:11~32	29名 39名
2018.6.23(土) 6.24(日)	久保 浩文 (松山教会)	～信仰の喜び～ 「喜びのある人生」 「試練の中にも神の憐れみが」	ルカ 2:22~38 ルカ 1:5~25	28名 32名
11.10(土) 11.11(日)	吉田 実 (神戸長田教会)	～真の喜びへの招き～ 「父の愛」 「帰るべき場所」	ルカ 15:11~24 ルカ 15:25~32	33名 33名

2019.5.26(日)	小野 静雄 (前多治見教会)	教会設立 70 周年記念礼拝 「イエスが私を呼んで くださる」	マタイ 13:53~58	52 名
10.19(土) 10.20(日)	田村 英典 (岡山西伝道所)	～講演会と伝道礼拝～ 「病める人に寄り添って」 「神の愛に包まれて」	ローマ 12:15 ヨハネ手紙一 4:7~10	45 名 43 名

* 2004 年 10 月より、伝道集会が土曜日・日曜日の 2 日にわたって行われるようになった。

* 2010 年、伝道委員会を設置。役員に加え、男子の会・女子の会・青年会からも参加。

* 2013 年、教会ホームページを開設。来会者・旅行者などにも利用されるようになる。

* 2015 年、春の伝道集会を 5 月から 6 月開催へと移す。

* 2016 年、伝道集会前に祈祷会が持たれるようになった。

* 2017 年、教会パンフレットを作成。RCJ メディアミニストリーの協力による。

* 2019 年 10 月、「特別講演会」の形で集会を持った。講演会チラシは外部発注した。

1 2. 松山教会・新居浜伝道所合同修養会

第 1 回 1997 年 9 月 15 日 (月) 於 マリンパーク

テーマ:「伝道について」

開会礼拝:久保浩文牧師

講演:柏原繁亘牧師

第 2 回 1998 年 9 月 15 日 (火・祝) 於 松山教会

テーマ:「教会形成と伝道」

開会礼拝:柏原繁亘牧師

講演:久保浩文牧師

第 3 回 1999 年 9 月 15 日 (水・祝) 於 ひうち会館 (西条市)

テーマ:「クリスチャンの家庭教育」

開会礼拝:久保浩文牧師

講演:柏原繁亘牧師

参加者数:合計 35 名

- 第4回 2000年9月15日(金) 於 松山教会
(※4/12久保牧師高知教会へ)
- テーマ「信徒の伝道」
開会礼拝：柏原繁亘牧師
講 演：柏原繁亘牧師
参加者数：合計20名
- 第5回 2001年9月15日(土) 於 マリンパーク
テーマ「祈りの生活」
開会礼拝：柏原繁亘牧師
講 演：柏原繁亘牧師
- 第6回 2002年9月16日(月) 於 松山教会
テーマ「礼拝について」
開会礼拝：柏原繁亘牧師
講 演：柏原繁亘牧師
参加者数：合計23名
- 第7回 2003年9月15日(月) 於 マリンパーク
テーマ「祈り・学び・感謝」
開会礼拝：柏原繁亘牧師
講 演：柏原繁亘牧師
参加者数：合計20名
- 第8回 2004年9月23日(木・祝) 於 松山教会
(※2/1小出牧師着任)
- テーマ「伝道と祈りの確信」
開会礼拝：小出昌司牧師
講 演：柏原繁亘牧師
参加者数：34名(内 松山25名 新居浜 9名)
- 第9回 2005年11月23日(水・祝) 於 新居浜伝道所新会堂
テーマ「伝道」～伝道の実践～
開会礼拝：柏原繁亘牧師
講 演：小出昌司牧師
参加者数：25名(内 松山14名 新居浜11名)
- 第10回 2006年9月18日(月)

台風のため中止

- 第11回 2007年9月24日(月・祝) 於 松山教会
テーマ「教会の成長」
開会礼拝：小出昌司牧師
講演：柏原繁宜牧師
参加者数：26名(内 松山21名 新居浜5名)
- 第12回 2008年9月23日(火・祝) 於 新居浜伝道所
テーマ「救いの確信」
開会礼拝：柏原繁宜牧師
講演：「救いの確信」小出昌司牧師
参加者数：18名(内 松山10名 新居浜8名)
- 第13回 2009年9月23日(水・祝) 於 松山教会
(※4/30 柏原牧師辞職 12/1 田中牧師着任)
テーマ「信仰の継承」
開会礼拝：首藤正治牧師
講演：「教会と家庭における信仰の継承」小出昌司牧師
参加者数：24名(内 松山18名 新居浜6名)
- 第14回 2010年9月23日(木・祝) 於 新居浜伝道所
テーマ「聖徒の交わり」
開会礼拝：「一つになって」 田中茂樹牧師
講演：「聖徒の交わり」～聖徒の交わりとしての教会、聖なる公同教会としての交わり～
小出昌司牧師
参加者数：23名(内 松山15名 新居浜8名)
- 第15回 2011年9月23日(金・祝) 於 松山教会
テーマ「捧げる喜び」
開会礼拝：「信仰を捧げた女性」 小出昌司牧師
講演：「捧げる喜び」 田中茂樹牧師
参加者数：25名(内 松山19名 新居浜6名)
- 第16回 2012年9月22日(土・祝) 於 新居浜伝道所
(※11/30 田中牧師辞職)
テーマ「死への備え」

- 開会礼拝：「死への備え」 田中茂樹牧師
 講演：「生涯をどのように終えるか」～個人的終末と葬儀に対する備え～ 小出昌司牧師
 参加者数：23名（内 松山13名 新居浜10名）
- 第17回 2013年9月23日（月・祝） 於 松山教会
 テーマ「礼拝を守るためには」
 開会礼拝：「目をさましていなさい」 小出昌司牧師
 講演：「礼拝を守るためには」 小出昌司牧師
 参加者数：27名（内 松山18名 新居浜9名）
- 第18回 2014年9月23日（火・祝） 於 新居浜伝道所
 （※4/1 久保牧師着任）
 テーマ「礼拝を守るためには」～喜び集う教会～
 開会礼拝：「霊と真理とをもって神を礼拝する」 久保浩文牧師
 講演：「礼拝を守るためには」～喜び集う礼拝～ 久保浩文牧師
 参加者数：23名（内 松山13名 新居浜10名）
- 第19回 2015年9月23日（水・祝） 於 松山教会
 テーマ「主の民として生きる」
 開会礼拝：「ケンクレアイ教会の奉仕者フェベとパウロ」 西田三郎牧師
 講演：「主の民として生きる」 久保浩文牧師
 参加者数：23名（内 松山15名 新居浜8名）
- 第20回 2016年9月22日（木・祝） 於 新居浜伝道所
 テーマ「地域に開かれた教会を目指して」
 開会礼拝：「主に導かれる伝道」 久保浩文牧師
 講演：「地域に親しまれる教会を目指して」 西田三郎牧師
 参加者数：22名（内 松山12名 新居浜10名）
- 第21回 2017年9月23日（土・祝） 於 松山教会
 テーマ「家族への伝道」～信仰の継承～
 開会礼拝：「あなたの家族も救われます」 西田三郎牧師
 講演：「家族への伝道～信仰の継承～」 久保浩文牧師
 参加者数：18名（内 松山12名 新居浜6名）
- 第22回 2018年9月24日（月・祝） 於 新居浜伝道所
 テーマ「説教の聴き方」

開会礼拝：「いのちの御言」 久保浩文牧師

講 演：「説教の聴き方」 西田三郎牧師

参加者数：22名（内 松山13名 新居浜9名）

第23回 2019年9月23日（月・祝） 於 松山教会

新型コロナ禍で休止

テーマ「教会をたて上げる説教」

開会礼拝：「 」 西田三郎牧師

講 演：「教会をたて上げる説教」 久保浩文牧師

参加者数：名（内 松山 名 新居浜 名）

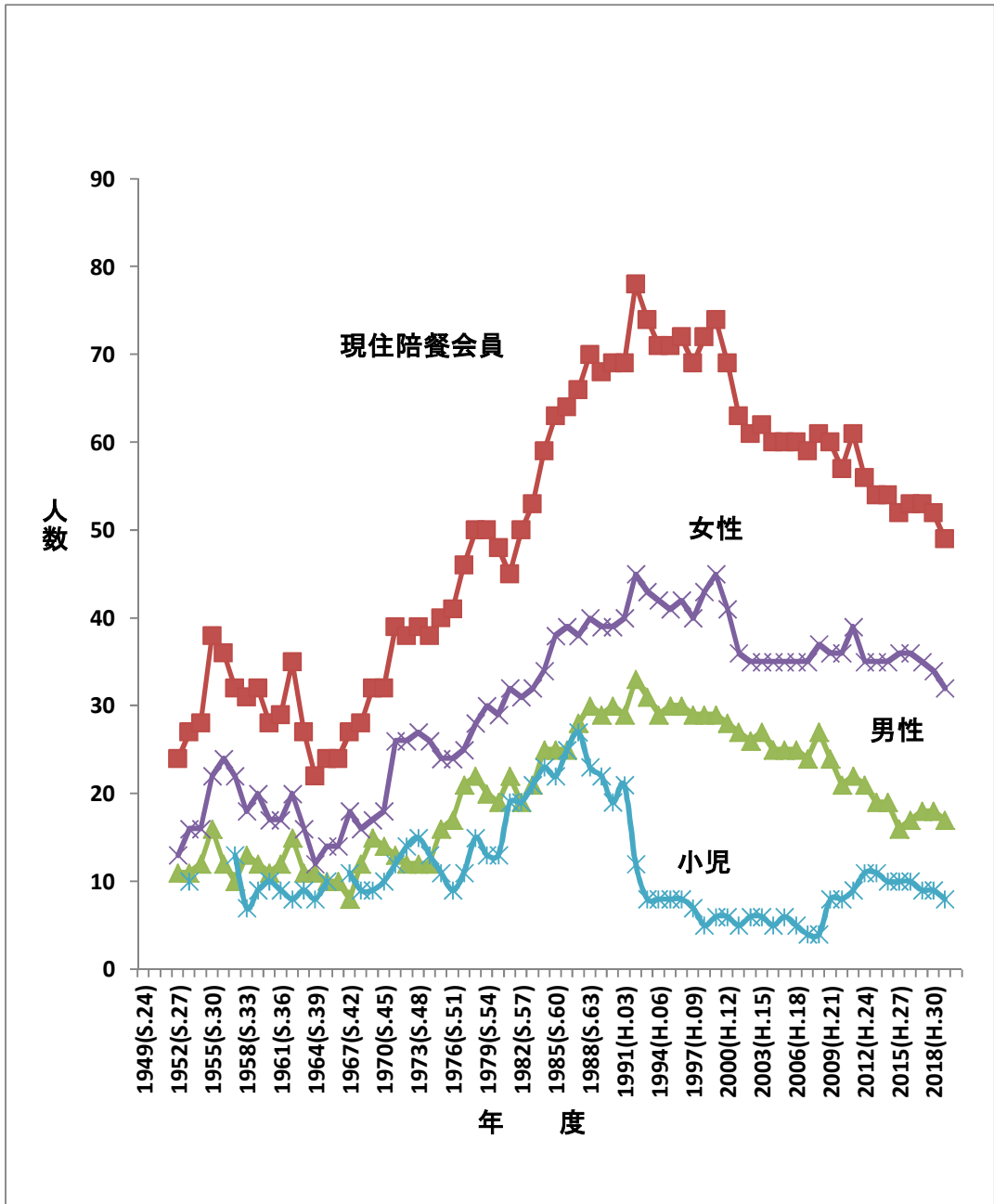
13. 召天された兄弟姉妹(1999年～2021年)

氏名	関係	召天日	受洗日	受洗教会
増岡 照雄	教会員	2001. 3. 1	1968. 12. 22	改革派松山教会
津崎 自助	教会員	2003. 8. 7	1920. 9. 12	福岡日本キリスト教会
篠原 代吉	教会員	2005. 1. 15	1929. 5. 25	東京神田日本キリスト教会
平岡 靖久	平岡みゑ子・夫	2006. 11. 4	1940. 12. 25	日基須磨浦教会
三瀬 幸子	教会員	2008. 9月	1983. 4. 3	日本基督教団伊予吉田教会
柏原 李恵	柏原繁宜・妻	2008. 11. 17	1966. 12. 25	改革派宿毛教会
河井 晴俊	河井タマ子・夫	2009. 12. 7	1980. 12. 21	改革派松山教会
立花 愛子	客員：立花俊彦・母	2010. 5. 15	1983. 3. 6	日基小倉教会
松本 尚子	教会員	2013. 11. 13	1940. 12. 20	日本基督教団松山教会
岩見 禮子	教会員	2016. 2. 22	1965. 8. 7	単立三笠キリスト教会
村上 清香	教会員	2019. 5. 13	1967. 5. 14	改革派高知教会
平岡ヨシノ	矢野幸子・母	2019. 9. 19	1949. 2. 27	改革派松山教会
青野 律子	教会員	2019. 12. 20	1954. 5. 30	改革派松山教会
杉山 公	教会員	2020. 3. 19	1957. 1. 1	改革派善通寺教会
大河 博子	教会員	2020. 4. 13	1959. 12. 25	日本基督教団今治教会
藤方 和子	教会員	2021. 8. 25	1967. 12. 10	改革派新居浜伝道所

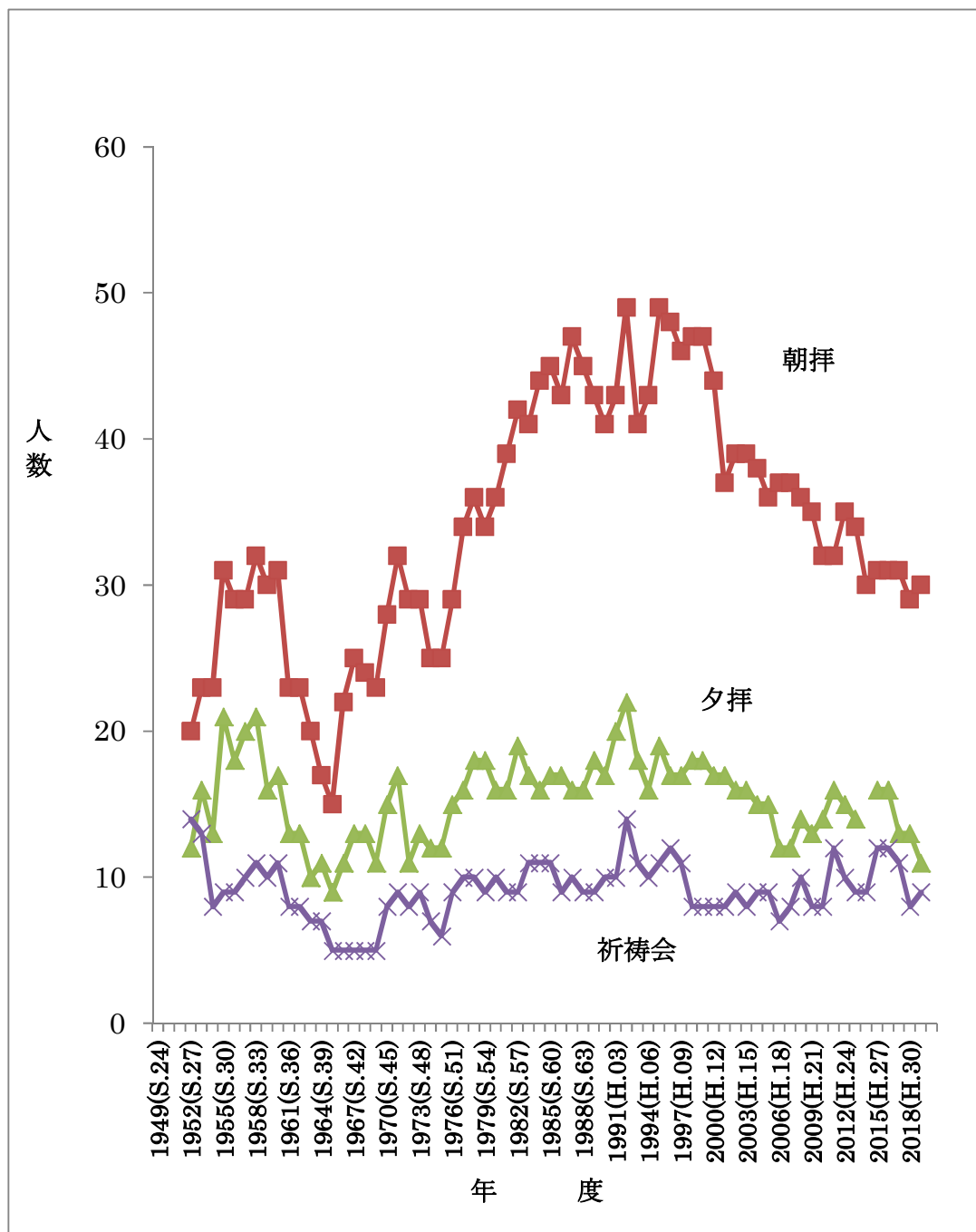
(敬称略)

1 4. 教勢統計

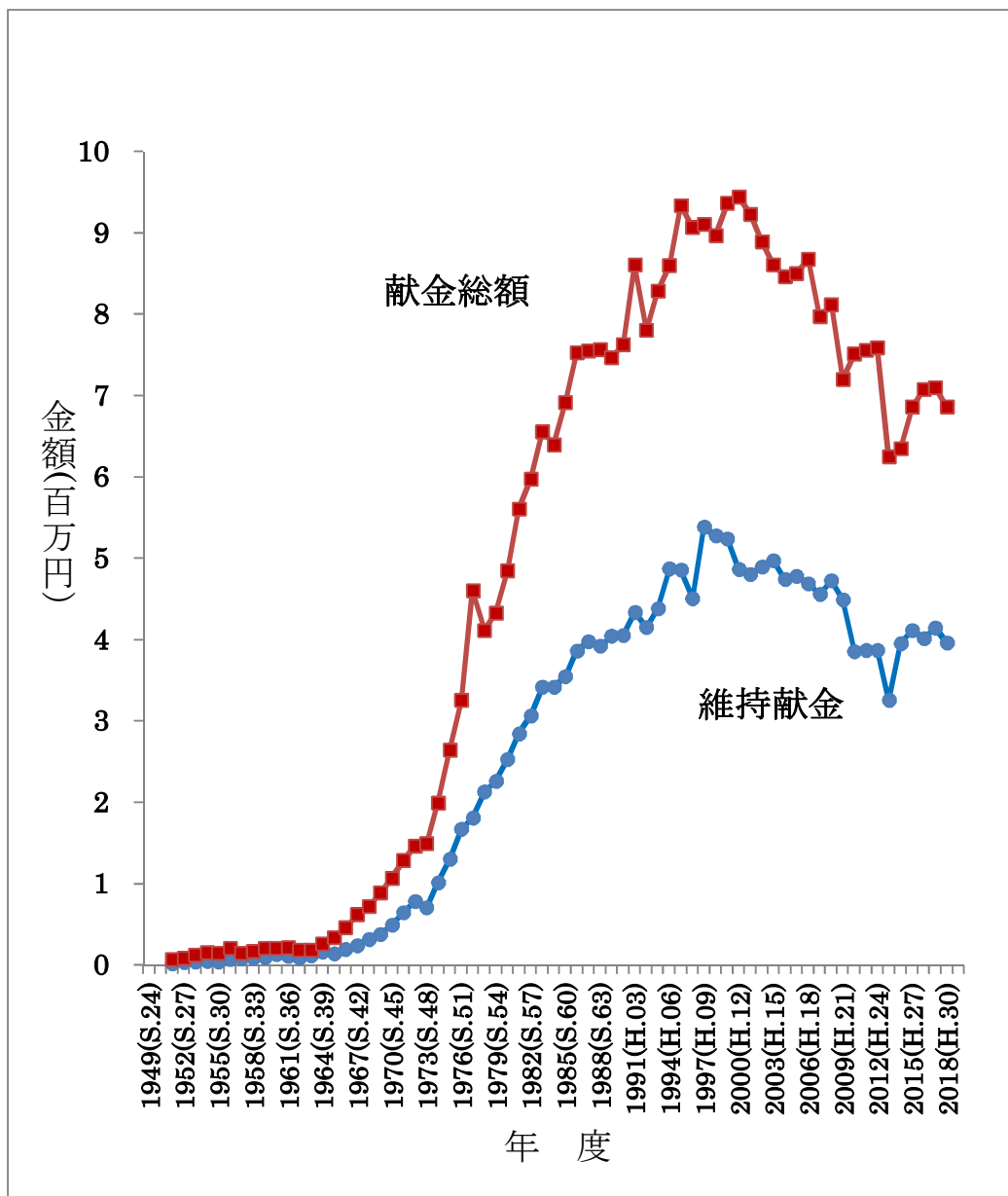
(1) 現住陪餐會員数



(2) 教勢概況



(3) 献金額



1 5. 松山教会の沿革(略史)

1947年 5月	平岡伝四郎氏宅で伝道開始
〃 9月	日本基督改革派松山伝道所開設
1949年 5月29日	日本基督改革派松山教会設立(会員12名)
1951年 5月	宮 道夫牧師着任
1952年 8月	教会敷地(現在地)を購入
1953年 12月	松山教会会堂 建築
1954年 1月10日	松山教会会堂 献堂式
1955年 4月	第5回四国中会定期会 松山教会開催
1959年	新居浜伝道開始
1960年	松山教会所属新居浜伝道所開設
1962年 4月	日本基督改革派新居浜伝道所設立:入船 尊先生着任
1963年 3月	松山教会 牧師館完成(教会堂裏 二階建23坪)
1964年 8月	宮 道夫牧師松山教会辞職
1965年 3月	上河原立雄教師(三原教会) 松山教会牧師着任
〃 9月	宇和島伝道開始(1年半)
1972年 4月	松山教会 会堂改築
〃 10月	愛媛伝道所開始(中会所属)小野静雄先生着任
〃	第27回定期大会 松山市内イワゼキヒルで開催
1974年	愛媛伝道所閉鎖 小野静雄先生新居浜伝道所へ
1975年 9月	愛媛伝道所再開 根来泰治先生着任
1977年 3月	愛媛伝道所閉鎖 根来泰治先生辞職
〃 3月	松山教会 和室増築
1990年 3月31日	上河原立雄牧師 松山教会辞職
〃 4月1日	鈴木英昭牧師(高松教会) 代理牧師就職
〃 9月1日	柏原繁宜牧師(丸亀伝道所) 松山教会牧師就職
1991年 4月	吉田伝道開始
1992年 2月	吉田集会所開設
〃 8月10日	新会堂建設開始 礼拝は松山済美会会議室(6月から)
〃 12月20日	新会堂完成、新会堂最初の礼拝クリスマス礼拝を献げる
1993年 1月10日	松山教会、新会堂献堂式

〃	4月12/13日	第43回四国中会定期会 松山教会開催
1994年	6月24日	牧師館 土地建物購入(土地39坪、二階建29坪)
〃	6月	松山教会墓地購入、道後聖墓苑内に設置
1997年	12月	吉田集会所閉鎖
1998年	4月12/13日	第48回四国中会定期会 松山教会開催
1999年	5月30日	松山教会設立50周年記念集会及び記念誌発行
2009年	4月30日	柏原繁宜牧師 松山教会辞職
〃	5月1日	吉田 崇牧師(坂出飯山教会)代理牧師就職 無牧の間、首藤正治引退牧師が説教担当
〃	12月1日	田中茂樹定住伝道者 松山教会着任
2010年	10月	教会堂の外壁、屋根、壁面等の補修工事
2011年	4月12/13日	第61回四国中会定期会 松山教会開催
〃	4月29日	田中茂樹定住伝道者 松山教会牧師就職式
2012年	11月30日	田中茂樹牧師 松山教会辞職
〃	12月1日	吉田 崇牧師(坂出飯山教会)代理牧師就職 無牧の間、後登雅博教師(清和女子中高等学校)が定期的 に説教担当
2013年	4月1日	久保浩文牧師(高知教会) 代理牧師就職
2014年	4月1日	久保浩文牧師(高知教会) 松山教会牧師就職
2015年	4月7/8日	第65回四国中会定期会 松山教会開催
2019年	4月9/10日	第69回四国中会定期会 松山教会開催
2019年	5月26日	松山教会設立70周年記念事業集会

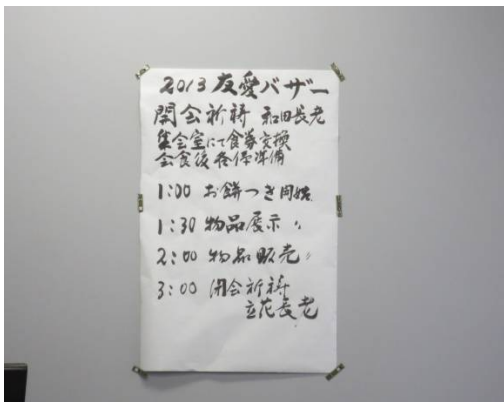






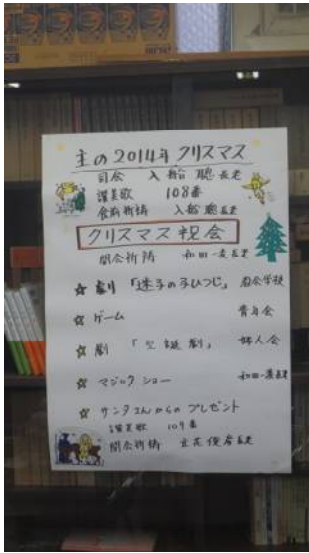














アブラハムとサラの会おめでとう

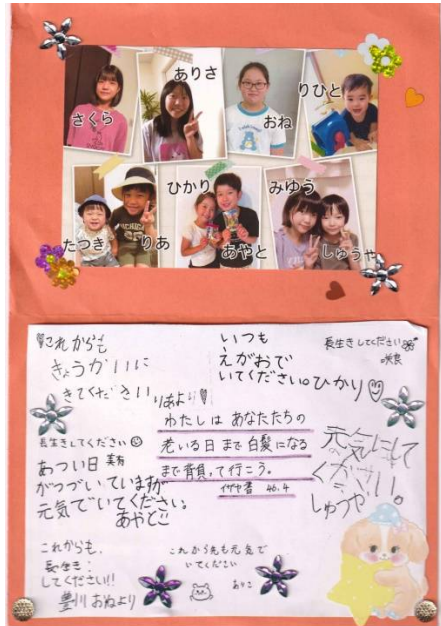
みんなで聖書の御言葉を読みましょう。

白髪は輝く冠、神に従う道に見いだされる。(箴言 16章 31節)

わたしに聞け、ヤコブの家よ
イスラエルの家の残りの者よ、共に。あなたたちは生まれた時から負われ
胎を出した時から担われてきた。
同じように、わたしはあなたたちの老いる日まで
白髪になるまで、背負って行こう。わたしはあなたたちを造った。わたしが担
い、背負い、救い出す。(イザヤ書 46章 3-4節)

だから、わたしたちは落胆しません。たとえわたしたちの「外なる人」は衰えて
いくとしても、わたしたちの「内なる人」は日々新たにされていきます。(コ
リントの信徒への手紙二 4章 16節)





(2) 設立70周年記念集会







17. 編集後記

「松山教会設立70周年記念誌」を2年遅れで出版し、皆様のお手許にお届けします。70周年を覚えて、多くの方々からの祝辞、祝文をはじめ、松山教会とゆかりの方々からも貴重な原稿、写真等が多く寄せられました。出版を目前にして、世界的な新型コロナウイルスの感染拡大により、編集会議が開けずに出版が大幅に遅れましたことを衷心よりお詫びを申し上げます。新型コロナは、変異株の発生により、収束の兆しが見えず、感染の危険が去ったわけではありません。しかし、すべての事柄は、全てを支配しておられる主なる神の御手の内にあります。この2年間に、私達の教会生活は、大きく様変わりしました。これまで、見過ごしてきたこと、気付かなかったことに目が開かれたことも事実です。50周年記念誌に寄稿されていた兄弟姉妹の中には、既に御国に凱旋された方もおられます。松山教会は、実に多くの兄弟姉妹方の祈りと奉仕によって支えられてきました。改めて、信仰の先輩たちの残された信仰の遺産を継承することの責任の重さを痛感します。私達は、70周年を迎えて、次の世代に何を遺せるのでしょうか。

記念誌を手にとって頂き、私達の弱さにも関わらず、これまで松山教会を憐れみ、導いて下さった主なる神の恵みに想いを馳せ、新たな課題に向けて一歩、また一歩と前進していきたいと思えます。

2022年7月

日本キリスト改革派松山教会設立70周年記念誌編集委員会

委員長（牧師）久保浩文

委員 入船 聡

〃 水谷房雄

〃 田村 実

〃 高井洋子

〃 和田紀子

日本キリスト改革派
松山教会創立70周年記念誌

発行日	2022年7月31日
編集	松山教会創立70周年記念編集委員会 〒790-0804 松山市中一万町6-4 ☎ 089-943-1892
発行所	松木共栄印刷有限公司 〒662-0917 兵庫県西宮市与古道町2-13 ☎ 0798-26-2512

(非売品)